

Sun Java™ System Application Server Standard および Enterprise Edition リリース ノート

バージョン 7 2004Q2 Update 5

Part No. 819-7149

このリリースノートには、Sun Java™ System Application Server Standard および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 のリリース時における重要な情報が含まれています。本書には、拡張機能、インストール時の注意、既知の問題、および最近見つかったその他の問題点が記載されています。Sun Java System Application Server 7 をご使用になる前に、このリリースノートと関連マニュアルをお読みください。

このリリースノートには、次の内容が含まれています。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [新機能](#)
- [プラットフォームの概要](#)
- [必須の Solaris パッチ](#)
- [アップグレードオプション](#)
- [移行ツールの使い方](#)
- [Sun ONE Studio 5 Standard Edition Update 1](#)
- [その他の要件と制限事項](#)
- [マニュアルの参照方法](#)
- [解決された問題](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告およびフィードバックの方法](#)
- [補足情報](#)

リリースノートの改訂履歴

この節では、Sun Java System Application Server 7 Standard Edition および Enterprise Edition 製品の初期リリース後に、リリースノートで変更が加えられた箇所について示します。

改訂日付	変更の詳細
2005 年 11 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 4 リリース
2005 年 4 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 3 リリース
2005 年 1 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 2 リリース
2004 年 9 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の Update 1 リリース
2004 年 5 月	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition の初版リリース

新機能

Sun Java System Application Server 7 Standard Edition および Enterprise Edition 2004Q2 Update 5 は、広い範囲にわたるアプリケーションサービスと Web サービスを展開するのに適した、高性能の J2EE プラットフォームを提供します。Update 5 リリース版には次の変更が加えられています。

- J2SE 1.4.2_09
JVM バージョンは 1.4.2_09 にアップグレードされています。
- Application Server 用 JWS DP 1.5.1 プラグイン

Sun Java System Application Server Standard および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 には、Java Web Services Developer Pack v1.5.1 プラグインを使用できます。このプラグインは、次の URL からダウンロードできます。
<http://www.sun.com/download/products.xml?id=432b5f8e>

プラットフォームの概要

この節では Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 でサポートされるプラットフォームコンポーネントについて説明します。

詳細は次のとおりです。

- [オペレーティングシステムと配布のタイプ](#)
- [システム要件](#)
- [JDBC ドライバとデータベース](#)
- [Web サーバー](#)
- [ソフトウェアパッケージ](#)
- [ブラウザ](#)

オペレーティングシステムと配布のタイプ

次の表に、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 でサポートされるオペレーティングシステムとその配布タイプを示します。

表 1 サポートされるオペレーティングシステムと配布のタイプ

プラットフォーム	オペレーティングシステムのバージョン	配布のタイプ	Application Server 7 2004Q2 Update 5 Edition
Solaris SPARC®	Solaris 8 Update 7、Solaris 9 Update 6、Solaris 10 ¹	ファイルベース とパッケージ ベース ²	Standard Edition および Enterprise Edition
Solaris x86	Solaris 9 Update 4、Solaris 10	ファイルベース とパッケージ ベース	Standard Edition および Enterprise Edition
Linux x86 ³	Red Hat Advanced Server 2.1 Update 3、Red Hat Advanced Server 3	ファイルベース と RPM ベース	Standard Edition および Enterprise Edition
Microsoft Windows ⁴	Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional	ファイルベース	Standard Edition および Enterprise Edition

¹Solaris 10 では、ファイルベースとパッケージベースの両方のインストールがサポートされています。グローバルゾーンのみがサポートされています。ローカルゾーンとローカルな散在するルートゾーンはサポートされていません。

²パッケージベースおよび RPM ベースの配布をインストールするには、スーパーユーザー権限が必要です。

³Red Hat Advanced Server 2.1 では、HADB は ext2 ファイルシステムのデバイスのみをサポートします。

⁴Microsoft Windows XP Professional で使用できるのは Standard Edition のみです。

システム要件

Sun Java System Application Server 7 Standard および Enterprise Edition 2004Q2 Update 5 の要件を次の表にまとめます。

表 2 Sun Java System Application Server のプラットフォーム要件

オペレーティングシステム	アーキテクチャー	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
Sun Solaris 8 SPARC、9 SPARC、または 10 SPARC 版	32 ビット /64 ビット ⁴	256M バイト	1024M バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域
Solaris 9 および 10 の x86 版	32 ビット	1.5G バイト (HADB を同じ場所に配置する場合)	2G バイト (HADB を同じ場所に配置する場合)		
Red Hat Enterprise Linux 2.1、3					
Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional	x 86 32 ビット				

⁴32/64 ビットは、サポートされる OS を示します。Sun Java System Application Server は、32 ビットアプリケーションです。

- UNIX では、オペレーティングシステムのバージョンを uname コマンドで確認できます。ディスク容量は df コマンドで確認できます。
- Solaris では、/usr/bin/perl の下にあるシステム全体の perl インスタンスが、パスに存在することを確認してください。デフォルトでインストールされている perl が見つからないと、Application Server のインストールに失敗します。

- 64 ビットモードの Microsoft Windows または Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムバージョンでは HADB はサポートされていません。Solaris (x86) では、HADB は 32 ビットモードのオペレーティングシステムでしかテストされていません。
- HADB は、共有メモリーセグメントを作成して接続する場合に、ISM (Intimate Shared Memory) (SHM_SHARE_MMU フラグ) を使用します。このフラグを使用すると、共有メモリーセグメントが基本的に物理メモリー内にロックされ、ページアウトされなくなります。そのため、HADB データベースの共有メモリーが物理メモリー内にロックされるので、ローエンドコンピュータ上のインストールに影響する可能性が高くなります。Application Server と HADB を同じ場所に配置する場合は、推奨される容量のメモリーがあることを確認してください。

JDBC ドライバとデータベース

Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition は、対応する JDBC ドライバを持つ、どの DBMS との接続もサポートするように設計されています。Sun がテストし、J2EE 準拠のデータベースの設定に使用できることが確認されたコンポーネントを次の表に示します。

表 3 サポートされる JDBC ドライバ

JDBC ベンダー	JDBC ドライバのタイプ	サポートされるデータベースサーバー
PointBase 4.2	Type 4	PointBase Network Server 4.2
JConnect 5.5	Type 4	Sybase ASE 12.5
DataDirect 3.2	Type 4	MS SQL Server 2000 Service Pack 1
DataDirect 3.2	Type 4	Oracle 8.1.7
DataDirect 3.2	Type 4	Oracle 9.2.0.1
Oracle 9.2.0.3	Type 2 (OCI)	Oracle 9.2.0.3+ w/RAC
Oracle 10.1.0.2	Type 4 および Type 2 (OCI)	Oracle 10g リリース 1 (10.1.0.2.0)
IBM	Type 2	IBM DB2 8.1 Service Pack 3

ほかにも、JDBC ドライバ検証プログラムによるテストで J2EE 1.3 プラットフォームの JDBC 要件に適合することが確認されたドライバがあります。これらのドライバは Sun Java System Application Server との JDBC 接続に使用できます。Sun では、これらのドライバに対する製品サポートは提供していませんが、Sun Java System Application Server でこれらのドライバの使用はサポートしています。

Web サーバー

この節では、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 Standard Edition および Enterprise Edition 向けにサポートされる Web サーバーの一覧を示します。

表 4 サポートされる Web サーバー

Web サーバー	バージョン	オペレーティングシステム
Sun Java System Web サーバー	6.0 Service Pack 6	Solaris SPARC 8 および 9 Red Hat Enterprise Linux 2.1 x86 Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional HP-UX 11i
Sun Java System Web サーバー	6.1	Solaris SPARC 8 および 9、 Solaris 9 x86、 Red Hat Enterprise Linux 2.1 Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows Server 2003 Windows XP Professional HP-UX 11i
Apache Web Server	1.3.29, 2.0.49	Solaris SPARC 8 および 9、 Solaris 9 x86、 Red Hat Enterprise Linux 2.1、 3、 Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 HP-UX 11i
Microsoft IIS	5.0	Windows 2000 Server Service Pack 2 Windows 2000 Advanced Server Service Pack 2 Windows 2000 Professional Service Pack 2 Windows XP Professional および Windows Server 2003 (Application Server の Standard Edition のみ)

ソフトウェアパッケージ

この節では、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 向けにサポートされる関連ソフトウェアパッケージの一覧を示します。

表 5 Application Server とバンドルするコンポーネントのバージョン

コンポーネント	Application Server 7.0 Platform Edition および Standard Edition で使用するバージョン	Application Server 7.0 Enterprise Edition で使用するバージョン	Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition で使用するバージョン	Application Server 7 2004Q2 Update 1 Standard Edition および Enterprise Edition で使用するバージョン	Application Server 7 2004Q2 Update 5 Standard Edition および Enterprise Edition で使用するバージョン
J2SE	1.4.0_02	1.4.1_03	1.4.2_04	1.4.2_05	1.4.2_09
PointBase	4.2	なし	4.2 (Standard Edition のみ)	4.2 (Standard Edition のみ)	4.2 (Standard Edition のみ)
Sun Java System Message Queue Standard Edition	3.0.1	3.0.1	3.5 Service Pack 1	3.5 Service Pack 1	3.5 Service Pack 2
JWSDP	1.0_01	1.0_01	1.0_01	1.0_01	1.0_01 ⁵

⁵ 製品 CD に収録された JWSDP 1.4 共通コンポーネントを使用して、インストールされている JWSDP をアップグレードします。

ブラウザ

この節では、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 でサポートされるブラウザの一覧を示します。

表 6 サポートされるブラウザ

ブラウザ	バージョン
Mozilla	1.4, 1.7
Netscape Navigator	4.79, 6.2
Internet Explorer	5.5 Service Pack 2、6.0

必須の Solaris パッチ

Solaris 8 システムには、次の URL の「パッチサポートポータル」から「推奨 & セキュリティーパッチ」に記載されている Sun 推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。

<http://jp.sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 システムには、パッチ番号 109326-06、108827-26、および 110934 のパッチをインストールしてください (全リビジョン対象。パッケージベースのインストールのみ)。これらの必須パッチは、インストーラによってチェックされます。これらのパッチがインストールされていないと、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 ソフトウェアをインストールしたり実行したりすることはできません。最新の推奨パッチクラスタには、これらのパッチが最初から含まれています。

アップグレードオプション

この節では、次のトピックを取り上げます。

- [Sun Java System Application Server のアップグレード](#)
- [高可用性データベースのアップグレード](#)

Sun Java System Application Server のアップグレード

Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 のインストーラにより、Application Server の旧バージョンから最新バージョンにアップグレードできます。各 Application Server は、サポートされているどのプラットフォームにインストールされたものも、同じプラットフォームおよびインストールタイプで、対応するバージョンにアップグレードできます。使用可能なアップグレードオプションを次の表に示します。

表 7 使用可能なアップグレードオプション

現在インストールされている製品	Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 にアップグレード可能
Sun ONE Application Server 7.0 Standard Edition、Update 1 - Update 9	Standard Edition Enterprise Edition
Sun ONE Application Server 7.0 Enterprise Edition	Enterprise Edition
Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Standard Edition および Enterprise Edition、Update 1、Update 2、Update 3、Update 4	Standard Edition Enterprise Edition

- 特定の条件下では、Sun ONE Application Server 7.0 などのベースインストールから Sun Java System Application Server 7 2004Q2 へのアップグレード操作を行うと、製品が自動的にアンインストールされる場合があります。Application Server 7 2004Q2 のアップグレード機能は使用しないでください。その代わりに、手動での移行操作を実行します。
- アップグレード後に、新しい設定ファイルとバックアップディレクトリ内にある元のファイルとを比較して、すべての変更点について確認する必要があります。元の設定ファイルに含まれているカスタム設定がアップグレード後の新しいファイルに継承されないことがあります。カスタム設定を含む古い設定ファイルと新しい設定ファイルとの同期がとれていない場合、サーバーの再起動時に問題が発生する可能性があります。アップグレードで影響を受けるファイルは次のとおりです。
 - `install_dir/config` 内のすべての *.conf ファイル
 - `server.xml` (管理およびサーバーインスタンス)
 - 管理およびサーバーインスタンスの `startserv` スクリプト
 - 管理およびサーバーインスタンスの `server.policy` ファイル
 - サーバーインスタンスの `sun-acc.xml` ファイル
 - `docroot/index.html` ファイル

Sun Java System Application Server 7 2004Q2 への手動での移行、およびアップグレードのその他の重要な前提条件については、『Sun Java System Application Server Standard and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 2 Installation Guide』を参照してください。

高可用性データベースのアップグレード

この節では、次のトピックを取り上げます。

- [アップグレード前のタスク / データの移行](#)
- [アップグレード手順](#)
- [アップグレードのテスト](#)

アップグレード前のタスク / データの移行

アップグレードを始める前に、HADB 履歴ファイル、管理エージェント設定ファイル、ログファイルとリポジトリ、およびすべてのデータデバイスをインストールパスの外部に保管します。次の手順を使用して、管理リポジトリと設定ファイルを移動します。

1. すべての古い管理エージェントを停止し、HADB ノードは引き続き実行します。
2. 各ホスト上で、リポジトリディレクトリを新しい場所に移動します。
3. 各ホスト上で、`dbconfig` ディレクトリを新しい場所にコピーします。

4. 各ホスト上で、mgt.cfg ファイルを更新し、dbconfig とリポジトリディレクトリの正しいパスを設定します。
5. 更新した mgt.cfg ファイルを使用して管理エージェントを起動します。

注 Linux では、日本語バージョンの Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 2 を Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 にアップグレードする前に HADB 4.4.1-6 をアンインストールしてください。

Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 5 にバンドルされている HADB のバージョンは、4.4.1-7 です。

そのまま 4.4.1-7 にアップグレードした後に HADB 4.4.1-6 をアンインストールすると、すべての RPM 特に sun-hadb-i-4.4.1-6 が削除されない場合があります。

sun-hadb-i-4.4.1-6 を削除するには、次のコマンドを実行します。

```
rpm -e --nodeps sun-hadb-i-4.4.1-6
```

アップグレード手順

HADB Version 4.4.x から Version 4.4.2-7 にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. [9 ページの「アップグレード前のタスク / データの移行」](#)で説明したアップグレード前のタスクを実行します。
2. HADB Version 4.4.2-7 をすべての HADB ホストにインストールします。その際、Version 4.4.x のパスとは異なるパス、たとえば /opt/SUNWhadb/4.4.2-7 にインストールします。
3. hadbm クライアントホストと HADB ホストのクライアントホストが異なる場合は、HADB Version 4.4.2-7 を hadbm クライアントホストにインストールします。
4. すべての HADB ホスト上で実行されているすべての管理エージェントを停止します。
5. 古い設定ファイルで HADB 4.4.2-7 ソフトウェアを使用して、管理エージェントプロセスを開始します。残りの手順では、HADB 4.4.2-7 /bin ディレクトリにある hadbm コマンドを使用します。
6. 次のコマンドを使用して、管理ドメイン内にパッケージを登録します。デフォルトのパッケージ名は V4.4 になるので、同じ名前の既存のパッケージと競合しないように別の名前が必要になる場合があります。

```
hadbm registerpackage --packagepath=/opt/SUNWhadb/4.4.2-7 V4.4.2-7
```

7. hadbm listpackages コマンドを実行し、新しいパッケージがドメイン内に登録されたことを確認します。

- 新しい **hadbm Version 4.4.2-7** を使用してデータベースを再起動します。デバイスと履歴ファイルを移動する必要がある場合は、次のように 1 回の操作でデバイスと履歴ファイルの新しいパスを設定して、オンラインアップグレードを実行します。

```
hadbm set packagename=V4.4.2-7,devicepath=new_devpath,historypath=new_histpath
```

デバイスと履歴ファイルがすでにインストールディレクトリの外部にある場合は、次のコマンドを実行します。このコマンドはノードの順次再起動のみを実行します。

```
hadbm set packagename=V4.4.2-7 database name
```

- hadbm status** コマンドを使用し、データベースのステータスが「**running**」になっていて、正常に機能し、クライアントのトランザクションを処理していることを確認します。
- すべての機能が正常な場合は、前にインストールしたパッケージを後で削除できます。古いパッケージを登録解除する前に、古いパッケージへのすべての参照を **ma** リポジトリから削除します。この手順を実行しないと、「**package in use**」というメッセージが表示され、**hadbm unregisterpackage** が失敗します。ダミーの再設定操作 (たとえば **hadbm set connectiontrace=** 前と同じ値) を行くと、古いパッケージへのすべての参照が削除されます。
- 次のコマンドを使用して、古いパッケージを登録解除します。

```
hadbm unregisterpackage [--hosts=host-list] old package name
```
- 古いインストールをファイルシステムから削除します。

アップグレードのテスト

Solaris 上でアップグレードが正常に行われたことをテストするには、次の手順を使用してアップグレードが正常に実行されたことを確認します。

- 実行されているプロセスで新しいバイナリが使用されていることを確認します。すべての HADB ノードで次のものを確認します。

```
new path/bin/ma -v  
new path/bin/hadbm -v
```
- データベースが実行されているかどうかを確認します。次のコマンドは、「**running**」状態のすべての HADB ノードを表示します。

```
new path/bin/hadbm status -n
```
- HADB を使用する製品のポインタが新しい HADB パスを指すように変更されていることを確認します。
- HADB を使用する製品では、アップグレードテストを実行して、HADB のアップグレードも機能していることを確認できます。
- オンラインアップグレードの後で、新しいバージョンが適切に機能していない場合は、以前のバージョンの HADB を使用する状態に戻します。ただし、管理エージェントリポジトリを変更した場合は、HADB 自体をダウングレードすることができますが、新しい管理エージェン트가引き続き実行されている必要があります。

移行ツールの使い方

既存の J2EE アプリケーションがほかのベンダーのアプリケーションサーバー上で動作している場合、Sun Java System 移行ツールを使用して、そのアプリケーションを Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 リリースに移行し、動作させることができます。移行したアプリケーションは、変更を加えなくても Sun Java System Application Server 7 2004Q2 リリース上で動作します。しかし、高可用性という特徴を生かすためには、sun-ejb-jar.xml の DTD バージョンの配備記述子 (deployment descriptor) が sun-ejb-jar_2_0-0.dtd ではなく sun-ejb-jar_2_0-1.dtd を指すように変更してください。

Sun ONE Studio 5 Standard Edition Update 1

Sun Java System Application Server と組み合わせて使える Sun ONE Studio 5 Standard Edition 製品のマニュアルは次の場所にあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/790.4>

使用可能なその他の IDE には、Sun Java Studio 5 Standard Edition Update 1、Sun Java Studio Enterprise 6 2004Q1、および Borland 製 JBuilder X のようなサードパーティー IDE があります。

その他の要件と制限事項

- 管理 GUI 内の ACL アプレットは、Java と cookie が有効でないブラウザにロードされません。Application Server の管理 GUI にアクセスする前に、ブラウザの設定をチェックして、Java と cookie の両方が有効に設定されていることを確認してください。
- Application Server は NFS 上でサポートされません。
NFS 上ではファイルベースのインストールが実行できますが、次の理由により、この構成で Application Server を実行することはお勧めしません。
 - タイムスタンプのロックとファイルの同期の問題。
 - NFS 上の Application Server の安定性がネットワークの可用性と信頼性に左右される。
 - NFS が別の問題をもたらす。
 - NFS の問題が発生した場合にトラブルシューティングが困難である。Application Server があいまいなエラーメッセージを報告する。

- バグ ID 6275091 「Host ヘッダーにポート番号が含まれていない場合、getServerPort () は、ポート 80 を返します」の修正の有効化。

デフォルトでは、このバグの修正は無効になっています。修正を有効にするには、次の手順で説明するように、Web サーバーの設定ファイルと Application Server の server.xml ファイルを変更します。

- a. magnus.conf を変更します。

Init fn="load-modules" に対して、init-passthrough と service-passthrough を funcs に追加します。

次に例を示します。

```
funcs="init-passthrough,service-passthrough,name-trans-passthrough,change_hostheader_init,change_hostheader"
```

- b. 次のパラメータを指定して変更を有効にします。

```
Init fn="change_hostheader_init" enabled="true" debug="false"
```

デフォルトでは、このフラグは無効になっています。debug="true" を設定して、修正のログを有効にします。デフォルトでは、これは無効になっています。

enabled="false" を設定した場合、getServerPort を実行すると、これまでと同じようにポート番号 80 が返されます。enabled="true" を設定した場合、getServerPort を実行すると、server.xml で指定した Application Server のポートが返されます。

- c. obj.conf を変更します。

PathCheck fn="deny-existence" path="*/WEB-INF/* の後で、次の変更を行います。

<Object name="lbplugin"> 内に Service fn="change_hostheader" を追加します。

- d. server.xml を変更します。

server.xml で、servername の形式を servername="hostname:port" に変更します。

ホスト名は前と同じものであるべきです。ポート番号を Application Server インスタンスのポート番号に変更します。ここで指定したポート番号が、getServerPort () メソッドによって返されます。

場合によっては、servername 属性を server-name として指定することがあります。

- 高可用性に関する要件と制限事項

Sun Java System Application Server 高可用性コンポーネントを設定する前に、次の高可用性に関する要件を満たしている必要があります。

- HADB に必要な最小メモリーは 512M バイトで、Application Server とともに正常に機能させるために推奨されるメモリーは 1G バイトです。

Application Server と HADB を同じコンピュータにインストールする場合に必要な最小メモリーは 1.5G バイトで、推奨されるメモリーは 2G バイトです。

- HADB は IPv4 のみをサポートします。

- ネットワークは、UDP マルチキャスト用に設定する必要があります。
- `create domain`、`extend domain`、`hadbm create`、または `hadbm addnodes` コマンドで使用するホストでは動的 IP アドレス (DHCP) を使用しないでください。
- HADB を Red Hat Linux 3.0 上で実行する場合は、オペレーティングシステムによる過度のスワッピングの問題を避けるために、**Update 4** をインストールする必要があります。**Application Server** は、Red Hat Linux 3.0 Update 4 ではテストされていません。バグ ID 6158393 を参照してください。
- 64 ビットモードの Microsoft Windows または Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムバージョンでは HADB はサポートされていません。
- HADB ファイルシステムのサポート : サポートされているいずれかのファイルシステムを使用するように HADB を設定する前に、いくつかの重要な項目について検討する必要があります。
- データデバイスとログファイルを保存するハードディスクドライブの書き込みキャッシュが無効になっていることを確認します。
 - RedHat Linux では、IDE ディスク用に `/sbin/hdparm` ユーティリティーを使用します。`/sbin/hdparm -W0 /dev/hda` コマンドは、ディスク `hda` の書き込みキャッシュを無効にします。`/sbin/hdparm -I device` を使用して、ドライブに関する詳細なステータス情報を取得します。SCSI ディスクの場合は、`sdparm` ユーティリティー (<http://sg.torque.net/sg/sdparm.html>) をダウンロードしてインストールする必要があります。このユーティリティーは、デフォルトの RedHat Linux Advanced Server の配布には含まれていません。これらのユーティリティーを誤って使用するとハードディスクドライブに障害が発生する可能性があるので注意して使用する必要があります。
 - Solaris (SPARC または x86) では、`format -e` ユーティリティーを使用する必要があります。`-e` オプションを使用していることを確認してください。このオプションを使用しないと、コマンドメニューに「cache」エントリが表示されません。
 - Windows では、デバイスマネージャーを起動します。ハードディスクドライブを探し、そのプロパティーを表示して、「ディスクのプロパティ」タブを選択します。チェックボックスは、書き込みキャッシュが有効かどうかを示します。

重要なインストールの前提条件およびトラブルシューティングのオプションの詳細については、『Sun Java System Application Server Standard and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 2 Installation Guide』を参照してください。

マニュアルの参照方法

Sun Java System Application Server のマニュアルは、さまざまな方法で入手できます。

- マニュアル—Sun Java System Application Server のマニュアルとリリースノートは、次の URL から HTML 形式と印刷可能な PDF 形式で参照できます。
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sjs.asse>
- オンラインヘルプ—グラフィカルインタフェースの「ヘルプ」ボタンをクリックするとコンテンツヘルプウィンドウを起動できます。
- マニュアルページ—コマンド行にマニュアルページを表示するためには、MANPATH 環境変数にまず `install_dir/man` を追加する必要があります (Solaris 別パッケージ版のみ)。変数の設定後、コマンド行に `man command_name` を入力すると、Sun Java System Application Server コマンドのマニュアルページにアクセスできます。次に例を示します。

```
man asadmin
```

Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 のマニュアル

Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004Q2 のマニュアルは、PDF 形式または HTML 形式のオンラインファイルでも入手できます。

次の表は、Sun Java System Application Server のマニュアルに記述されているタスクと概念を示しています。次のマニュアルは、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 Standard Edition および Enterprise Edition のリリースに伴って改訂されています。入手可能なマニュアルの一覧は、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sjs.asse> を参照してください。

表 8 Sun Java System Application Server マニュアル

内容	参照するマニュアル
ソフトウェアおよびマニュアルについての最新情報が記載されています。サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、JDK、および JDBC/RDBMS の詳細な表形式の概要などが含まれています。	『リリースノート』

解決された問題

次の表は、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition 7 2004、Update 1、Update 2、Update 3、Update 4、および Update 5 のリリースで解決された重要な問題の一覧を示しています。

表 9 解決された問題

バグ ID	説明
6285724	HTTP 要求のスマグリングに脆弱性があります。
6195183	Application Server はファイルのダウンロードに非常に長い時間がかかります。
4728247	Web コンポーネントにより J2eeTranMgrImpl.resourceTable にメモリーリークが発生します。
6320650	ロードバランサプラグインが開放された領域を再使用します。
6360036	証明書を削除できません。
6193404	loadbalancer.xml ファイルのエラー URL が間違っています。
6264531	接続プールによって障害の発生した接続が正しく管理されません。
6299173	回復した / 再起動したインスタンスがステートレスセッション Bean による RMI-IIOP 負荷分散に参加しません。
6330559	Application Server は JSP 応答でコンテンツの長さのヘッダーを送信すべきです。
6311039	「要求ハンドラが見つからない」メソッドにセキュリティの問題があります。
6331179	Application Server の管理コンソールが Root CA 証明書をインポートできません。
6350915	HAStore は HA のタイムアウトと接続プールからの接続のリークを引き起こす可能性があります。
6351945/6353531	スケジューラベースのログローテーションが Windows 2000 で機能しません。
6358422	ロードバランサプラグインがキープアライブ接続設定を正しくサポートするべきです。
6377981	Application Server 7 2004Q2 Update 4 の管理サーバー構成パスワードページが失敗します。
6378437	動作が止まった後に「CORBA BAD_OPERATION: 委任が設定されていません」というメッセージが表示されて、EJB 動作に失敗します。
6385431	NSAPIRequest.java のエラーメッセージを改善します。
6387705	ロードバランサの健全性検査に常に失敗します。
6387790	サイトをまたぐスクリプト作成に脆弱性があります。
6390043	URL の再書き込み中に JSESSIONID に問題が発生します。

表 9 解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6307510	EJBC/RMIC が完全修飾パッケージ名のない stub/skel を生成します。
6179712	サンプルアプリケーション (JSTL): precompile jsp を TRUE に設定して JSP をプリコンパイルできません。
6294169	最初のアクセスでのみ、javax.servlet.request.X509Certificate 属性を使用して X509 クライアント証明書を取得できます。
6288472	サブエージェントの smux ポートを変更できません。
5103186	Microsoft Windows 2003 でネットが 1 つダウンしていると、NSUP を起動できません。
6174676/6179084	configure-ha-cluster を実行できません。
6178228/6179010	configure-ha-cluster に不具合があります。
6181845	Microsoft Windows 上に、1 つのサイズが 2G バイトを超えるデータデバイスを作成できません。
5042351	新規ノードの追加後に作成された新規テーブルが、追加ノードに配信されません。
6175436	再断片化の処理中に 2 回目の addnodes が失敗します。
6232577	txn.delist が発生すると、JDBC 接続が切断されます。
6233628	アップグレード用のパッケージベースのインストーラは、ルート以外のドメインまたはインスタンスでは使用できません。
6241404	Application Server からの未確定のトランザクションは復旧しません。
6249872	サーブレットの service() メソッドが終了しない場合、Application Server をシャットダウンできません。
6251775	セッションタイムアウトで、最後にアクセスした時刻が考慮されません。
6252444	IP ベースの ACL が Application Server 7.x で機能しません。
6254469	エラーメッセージを表示するときに日本語の文字が文字化けします。
6255219	休止機能がマニュアルに記載されたとおりに機能しません。
6267905	appservd は、最初の appservd が存在しないと、CPU リソースを占有します。
6275091	Java サーブレット: Host ヘッダーにポート番号が含まれていない場合、getServerPort() は、ポート 80 を返します。
6277733	Red Hat Linux 3 では、stats-init がオンになっていると、appservd が断続的にクラッシュします。
6282210	Application Server 7 2004Q2 Update 3 で、管理 GUI の URL 転送の変更用の修正が、VS-obj.conf に追加されません。
6289742	Application Server ロードバランサプラグインは、負荷が高いと要求を失います。

表 9 解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
6183117	pdf/xls ファイル用のサプレットフィルタを使用している場合、HTTP ヘッダーが正しくありません。
5039674	create-jdbc-connection-pool は、互換性のない restype に関するエラーを返しません。
6156699	マニュアルの手順の間違い : Web サーバープラグインの設定
6220602	ファイルとしてディスクに対して非活性化されたステートフルセッションが、削除タイムアウトを過ぎても削除されません。
6233088	Application Server 7 のインストール時にエラーが発生し、ファイル内のトークンが置き換えられます。
6233123	Oracle および JMS による XA トランザクションでは、Oracle がダウンするとメッセージが紛失する可能性があります。
6236311	HADB: 割り当てられるステートメントハンドルの数が多すぎます。
6240771	EJB クラスローダによって JAR 入力ストリームが閉じられません。
6241348	ロードバランサが HTTPS から HTTP へのリダイレクトに失敗します。
6171762	jndi-name に「,」が含まれていると、S1ASCtxFactory によるクライアントの JNDI 検索に失敗します。
4916390	アプリケーションの配備中に、コマンド行オプションを javac に渡すことができません。
6172138	SJAS 7.0 2004Q2 EE が応答不能になると、statefulsessionbean テーブル内のエントリがクリアされません。
6193156	Application Server 7.x が CORE 3148 によってクラッシュします。シグナルに応答できません (割り込みシステムコール)。
6209453	あるクラスタ上のすべてのインスタンスが無効になっても、ロードバランサが他のクラスタにフェイルオーバーしません。
6215977	特定のファイルの種類に対してアクセスを制限できません。
6217658	セキュリティー問題。
6218086	ACL の解析をポストできません。
6218460	JTS タイムアウトに十分に余裕がある場合でも、トランザクションタイムアウトのためにトランザクションが失敗する可能性があります。
6223279	EJB DD の配備 : jndi-name が見つからない場合、jndi-name を使用した ejb-ref-name のマッピングが正しく生成されません。
6223367	ACL を変更しても server1-obj.conf にオブジェクトが追加されません。
6223368	管理 UI で ACL を表示できません。
6230798	接続を閉じるときにプールによって例外がスローされると、接続漏れが発生します。

表 9 解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
2120798	DataDirect JDBC ドライバのサポートを必要とします。
2120799	関係の管理中にランタイムがコレクションフィールドを再ロードします。
6157465	HADB のバージョンを含むフルパスが、asenv.conf ファイルにハードコードされます。
6170685	ロードバランサプラグインが Application Server のハングアップを検出しません。
6178431	asadmin CLI で、新しく作成されたインスタンスから jvm オプションをプログラムレベルで削除できません。
2107329	JDBC 接続プールが接続を正しく解放しません。
2114274	競合するキャッシュ制御ヘッダーが生成されます。
2114629	クライアント認証が、Microsoft IIS 5.0 上でロードバランサプラグインと連携して機能しません。
2114630	asadmin CLI を使用して認証レلمを作成するときにエラーが発生します。
2119440	request.getAttribute("javax.servlet.error.request_uri") が動作しません。
4997111	整列化の問題。
6156704	Microsoft IIS 上のロードバランサプラグインによって、HTTP ヘッダー内に Server がハードコードされます。
6157453	サーブレットフィルタ init() メソッドが、JNDI コンテキストを検索できません。
6157473	HADB データベースへのログインが失敗した場合にエラーメッセージが表示されません。
6171200	URL でエンコードした一部の URL の場合にロードバランサプラグインがクラッシュします。
5084132	HADB: セマフォルーチンがスレッドセーフではありません。
5097447	HADB: logstore のガベージコレクションが動作しません。
6173355	Applicaion Server の再起動時にデータベース接続を試みると、InvocationException が発生します。
6181948	入力確認エラーが発生します。
6182861	WSI サンプルアプリケーションが Sun Java System Web Server 6.1 に対して実行されるという例外が発生します。
6156737	ヒープサイズが 1G バイトに設定されている場合に、HP-UX 上で Application Server が起動しません。
2060927	Sybase を使用すると、findByPrimaryKey が char 主キーの壊れた Bean を返します。
2058376	EJB コンパイラが内部クラス用の有効な Java コードの生成に失敗します。

表 9 解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
2075012	Application Server の asadmin ユーティリティーが、SSL 起動用のパスワードを常に要求します。
2076810	Application Server が WAR ファイルの配備時にクラッシュします。
2078410	インスタンスを停止して起動 (再起動) するときに SNMP が動作しません。
2078969	iwsInstanceDeathCount が更新されません。
2079436	Application Server 7.0 UR1 の日本語バージョンで管理ツールが正常に動作しません。
2079785	Bean のリモートインタフェースに Util という名前を付けると配備に失敗します。
2080612	SSL が有効な状態で passthrough プラグインを使用して i18n アプリケーションにアクセスすると appservd.exe がクラッシュします。
2081055	jdbc/simple サンプルアプリケーションを配備すると警告メッセージが表示されます。
2081692	プラグインが XML ストリームを切り捨てます。
2084205	CMP pk クラスに非持続 public フィールドがあると、ArrayIndexOutOfBoundsException が発生します。
2092977	SSL オフロード越しの Application Server ではトラフィックを HTTP から HTTPs に変更する必要があります。
2102329	CMP マッピングエラー: フィールドに、Application Server Studio プラグインから報告される有効な下限がありません。
4739569	「オフ」または「無効」状態の仮想サーバーにアクセスできます。
4950512	Microsoft Windows で稼動する Application Server に J2EE アプリケーションを配備できません。
4953606	Application Server の passthrough プラグインが、Microsoft IIS と連動するときに POST 要求を 2 つに分割します。
4989269	ユーザー DN に / が表示されると、LDAP セキュリティーレルム認証に失敗します。
4992519	製品をインストールしたユーザーだけしかアンインストールできません。
4994363	セキュリティーロールマッピングが正しく更新されません。
5001994	javax.servlet.http.HttpServletRequest.getRequestURI がデコードされた要求を返します。
5004406	大文字と小文字が混在すると、--passwordfile が正常に動作しません。
5011751	Long データ型の入力パラメータを使用するファインダによる EJBQL の場合に、CMP を配備できません。
5015561	getMetaData() が ResourceException をスローすると、JCA が物理接続をリークします。

表 9 解決された問題 (続き)

バグ ID	説明
5015994	購入時のパフォーマンスを向上させるための設定変更。
5017695	authentication-mechanism なしに .rar を配備できません。
5020224	正しく形式化されていないヘッダーで要求処理が停止します。
5021054	Java をロードする場合、EJB クラスローダが EJB 仕様に従いません。
5025894	JCA 1.5 機能が部分的に要求されます。
5039545	Web コンテナが絶対リダイレクトを送信し、外部のロードバランサまたはプロキシで問題を引き起こします。
5048147	ロケールが zh_CN に設定された Application Server の server1 インスタンスの server.log には、誤ってエンコードされたというメッセージがあります。
5052594	複数のキーを持つ CMR アプリケーションを Application Server 7.0x に配備できません。
5056695	Application Server の信頼データベースに、デフォルトの root CA 証明書が格納されていません。
5063854	最後のセッションの情報にアクセスできます。
2082209	DB2 サーバーに、DB2 Type II ドライバのアイドルタイムアウト後に大きくなる接続があります。
2103829	破壊されたトランザクションログファイルにより Application Server がハングアップします。
2105120	プログラムレベルでの再接続のために、CNContextFactory と S1ASContextFactory のどちらも使用できません。
2105121	ディレクトリサーバーが一度停止してから起動すると、Application Server がディレクトリサーバーに再接続しません。
2120373	Application Server コンテナ内部でサードパーティーの ORB を使用するために文書化されたメソッドすべてを、ユーザーが使用できません。
5063481	トレースメソッドを無効にできません。
6066323	Microsoft Windows で clsetup が動作しません。

既知の問題と制限事項

この節では、Sun Java System Application Server 7 2004Q2 Update 5 Standard Edition および Enterprise Edition の既知の問題とその回避方法について説明します。

注	問題の説明にプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。
---	--

この節は次の項目から構成されています。

- [インストールとアンインストール](#)
- [サーバーの起動とシャットダウン](#)
- [データベースドライバ](#)
- [ログ](#)
- [Web コンテナ](#)
- [Message Service とメッセージ駆動型 Beans](#)
- [JTS \(Java Transaction Service\)](#)
- [アプリケーションの配備](#)
- [ベリファイア](#)
- [ロードバランサ](#)
- [高可用性](#)
- [サーバーの管理](#)
- [サンプルアプリケーション](#)
- [ORB/IIOP リスナー](#)
- [マニュアル](#)

インストールとアンインストール

この節では、インストールとアンインストールに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6439570	<p data-bbox="319 383 958 407">管理 GUI 上のマニュアルページへのリンクが壊れています。</p> <p data-bbox="319 427 925 451">ブラウザにページが「見つかりません」と表示されます。</p> <p data-bbox="319 470 391 494">解決法</p> <p data-bbox="319 517 1285 574">Application Server のマニュアルページにアクセスするには、次のリンクを使用してください。</p> <p data-bbox="319 591 813 618">http://docs.sun.com/app/docs/prod/sjs.asse</p>

ID	要約
6245916	<p>日本語および簡体字中国語のロケールでは、地域対応化された Application Server 7.1 Update 2 を Update 3、Update 4、または Update 5 にアップグレードすると、Update 2 の地域対応化された「welcome」ページと index.html が表示されます。</p> <p>地域対応版の Application Server 7.1 Update 5 には、Application Server 7.1 Update 2 の地域対応ファイルが含まれています。</p> <p>解決法</p> <p>Update 5 へのアップグレード後、次の場所にある英語版の「welcome」ページとインデックスページを参照してください。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/docs/about.html</i></p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/index.html</i></p> <p>Sun Java System Application Server を登録するには、次の URL を使用します。</p> <p>日本語の場合： https://www.sun.com/software/product_registration?locale=ja_JP</p> <p>簡体字中国語の場合： https://www.sun.com/software/product_registration?locale=zh_CN</p> <p>古い地域対応版ではなく、既存のドメインの最新の index.html (英語版) を表示するには、index.html を docroot フォルダにコピーします。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/index.html</i> を次の場所にコピーします。</p> <p><i>Appserver_domain_root/domains/domain1/admin-server/docroot</i></p> <p>新しいドメインを作成する前に、地域対応化された index.html を英語版の index.html に置き換えます。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/index.html</i> を次の場所にコピーします。</p> <p><i>Appserver_Install_Dir/lib/install/templates/{ja,zh_CN}/index.html</i></p> <p>現在の日本語または簡体字中国語の index.html ファイルを必ずバックアップしておいてください。</p>
6222700	<p>日本語および簡体字中国語のロケールでは、地域対応化された Application Server 7.1 Update 2 を Update 3、Update 4、または Update 5 にアップグレードすると、server1 インスタンスのデフォルトページが英語で表示されます。</p>

ID	要約
6245424	<p data-bbox="319 239 1308 296">地域対応化された Application Server Update 5 をアンインストールしても、地域対応化されたパッケージや RPM が残ったままになります。</p> <p data-bbox="319 314 391 336">解決法</p> <p data-bbox="319 361 1286 418">最初に、地域対応化されたパッケージや RPM を削除してから、アンインストールプログラムを実行します。パッケージベースの Solaris インストールでは、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="319 435 676 458" style="list-style-type: none"> 1. 次のパッケージを削除します。 <pre data-bbox="319 475 1133 609"> pkgrm SUNWjaspX SUNWjasdmo SUNWjiquc SUNWjiqu SUNWjaso pkgrm SUNWjjmail SUNWjjaf SUNWjasaco SUNWjascmo SUNWjaspX pkgrm SUNWcaspX SUNWcasdmo SUNWciquc SUNWciqu SUNWcaso pkgrm SUNWcjmail SUNWcjaf SUNWcasaco SUNWcascmo SUNWcaspX </pre> <ol data-bbox="319 626 1048 690" style="list-style-type: none"> 2. Application Server のアンインストールプログラムを実行します。 3. Application Server のインストールディレクトリを削除します。 <pre data-bbox="319 708 629 730">rm -rf Appserver_Install_Dir</pre> <p data-bbox="319 748 1008 770">PRM ベースの Linux インストールでは、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="319 788 619 810" style="list-style-type: none"> 1. 次の PRM を削除します。 <pre data-bbox="319 828 876 1338"> rpm -e SUNWjasaco-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjascmo-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjasdmo-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjaso-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjaspX-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjjaf-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjjmail-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWasaco-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWascmo-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWasdmo-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWaso-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWaspX-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjaf-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm rpm -e SUNWjmail-zh_CN-7.1.0-02.src.rpm </pre> <ol data-bbox="319 1355 1048 1420" style="list-style-type: none"> 2. Application Server のアンインストールプログラムを実行します。 3. Application Server のインストールディレクトリを削除します。 <pre data-bbox="319 1437 629 1459">rm -rf Appserver_Install_Dir</pre> <p data-bbox="319 1477 886 1499">Windows インストールでは、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="319 1517 1048 1576" style="list-style-type: none"> 1. Application Server のアンインストールプログラムを実行します。 2. Appserver_Install_Dir を削除します。

ID	要約
6208875	<p>アップグレードのインストールに失敗して、java.io.FileNotFoundException が発生します。</p> <p>Solaris SPARC、Solaris x86、および Linux でファイルベースの HADB のアップグレードを実行すると、次のような特定のシナリオで問題が発生します。</p> <p>インストールに失敗して、次の例外が発生します。</p> <pre>java.io.FileNotFoundException: /sun/appserver7/./SUNWhadb/4 (Is a directory)</pre> <p>アップグレードシナリオ: 7.1RTM/7.1ER1/7.1UR1 から 7.1UR2 へのファイルベースのアップグレード。</p> <p>解決法</p> <p><i>file-based-installing-directory</i>/SUNWhadb/4 ソフトリンクの名前を、SUNWhadb/3 などの別の名前に変更します。アップグレードを再起動します。</p>
6217112	<p>Microsoft Windows プラットフォームで増分インストールが動作しません。</p> <p>Application Server とともにサンプルアプリケーションをインストールすることが可能です。これらのアプリケーションは増分インストールできません。</p> <p>解決法</p> <p>インストール開始時にサンプルアプリケーションをインストールするように指定します。増分インストール時には、サンプルアプリケーションオプションを選択しないでください。</p>
5006942	<p>Microsoft Windows 上で、アップグレードの後は、生成されたサービスの起動タイプがデフォルトで「自動」に設定されます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. Microsoft Windows サービスを開きます。2. サービスの起動タイプを「手動」に変更します。
6217097	<p>アップグレード用の Application Server バイナリを root 以外のユーザーでダウンロードしていない場合、root 以外のユーザーで実行するファイルベースのアップグレードは失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>ダウンロードされるバイナリは、root 以外のユーザーが所有する必要があります。ダウンロードされたアーカイブは、インストールまたはアップグレードを実行するユーザーによって解凍される必要があります。そうでない場合、JDK がアップグレードされる間にアクセス権の問題が発生することがわかっています。</p>

サーバーの起動とシャットダウン

この節では、起動とシャットダウンに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4693581	<p>Application Server の起動時に、IMQ ブローカで障害が発生し、「IOException: Not Enough Space」というメッセージが表示されます。</p> <p>このエラーは、Application Server と IMQ ブローカが同時に起動するときに発生します。appservd プロセスは、新規プロセスをフォークして iMQ ブローカを起動しようしますが、十分なスワップ容量がないと処理に失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Application Server を起動する前に IMQ ブローカプロセスを起動します。次に例を示します。<code>appserver_install_dir/imq/bin/imqbrokerd -name appserver_instance_name -port jms-service port -silent</code></p>

ID	要約
4762420	<p>ファイアウォールの規則により、Application Server の起動に失敗することがあります。</p> <p>パーソナルファイアウォールをインストールしている場合に発生する問題です。Application Server がインストールされているマシンに厳密なファイアウォール規則を適用すると、管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスの起動時に障害が発生することがあります。管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスは、Application Server 環境でローカル接続を確立しようとします。これらの接続はローカルのホストではなくシステムのホスト名を使ってポートにアクセスしようとするので、ローカルのファイアウォールの規則に従ってブロックされることがあります。</p> <p>セキュリティ上何の問題もない処理に対して、ローカルのファイアウォールが誤った警告を生成することもあります。たとえば、Application Server がポート 3700 で TCP 接続を試行しているのに、「Portal of Doom Trojan」攻撃または同様の攻撃を受けたというメッセージが表示される場合があります。このような問題は、Application Server がローカル通信に使用するポート番号と、既知の一般的な攻撃に使用されるポート番号が重複している場合に発生します。ポート番号が重複しているかどうかの判断基準は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">管理ログファイルとサーバーインスタンスログファイルに、接続例外と次のメッセージが書き込まれています。 CORE3186: Failed to set configuration <p>解決法</p> <p>Application Server からローカルシステム上のポートに接続できるように、ファイアウォールポリシーを変更します。</p> <p>攻撃について誤った警告が生成されないようにするには、攻撃関連の規則を変更するか、Application Server が使用するポート番号を変更します。</p> <p>管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスが使用するポート番号は、Application Server のインストール先の次の場所にある server.xml ファイルで確認できます。</p> <pre>domain_config_dir/domain1/admin-server/config/server.xml domain_config_dir/domain1/server1/config/server.xml</pre> <p>domain_config_dir はサーバーの初期設定を行なった場所です。次に例を示します。</p> <p>Solaris 9 の統合インストールの場合: /var/appserver/domains/...</p> <p>Solaris 8、9 の Unbundle 版のインストールの場合: /var/opt/SUNWappserver7/domains/...</p> <p><iiop-listener> 要素と <jms-service> 要素のポート設定を確認します。これらのポート番号を未使用のポート番号に変更するか、ローカルマシン上のクライアントから同じマシン上のこれらのポートへ接続できるようにファイアウォールポリシーを書き換えます。</p>

ID	要約
5003245	<p>ポートの設定を変更して再起動すると、サーバーが 2 つのポートに対して待機状態となります。</p> <p>解決法</p> <p>ポート番号を変更した後、asadmin コマンドを使ってサーバーを停止 (asadmin stop-instance)、起動 (asadmin start-instance) します。</p>

データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
2082209/ 5022904	<p>DB2 サーバーに、DB2 Type II ドライバのアイドルタイムアウト後に大きくなる接続があります。</p> <p>解決法</p> <p>SteadyPoolSize と MaxPoolSize を同じ数字に設定し、アイドル接続タイムアウトを 0 (ゼロ) に設定します。これによりアイドル接続のタイムアウトが無効になり、ユーザーはすべての接続を使用できるようになります。</p>
4700531	<p>Solaris 上で、JDK 1.4 を使用しているとき Oracle JDBC ドライバのエラーが発生します。</p> <p>これは、Oracle 用の新しい JDBC ドライバが、JDK 1.4 と連携して機能する場合に問題となります。Oracle 9.0.1 データベースと ojdbc14.jar が併用されているために、エラーが発生します。Oracle 9.0.1.3 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。</p> <p>解決法</p> <p>Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Oracle の Web サイトに移動します。2. 「patches (パッチ)」ボタンをクリックします。3. パッチ ID フィールドに「2199718」と入力します。4. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。次に、Metalink.oracle.com に移動します。5. パッチをクリックします。6. パッチ ID 2199718 を入力します。7. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。

ID	要約
4991065	<p>J2EE 1.3 に準拠させるために、Oracle JDBC ドライバを適切に設定する必要があります。</p> <p>解決法</p> <p>Type 2 および Type 4 のドライバを次のように設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none">9.2.0.3 以降の JDBC を使用します。Oracle データベースのパラメータファイル (init.ora) 中に compatible=9.0.0.0.0 以上を加えます。ojdbc14.jar ファイルを使用します。Application Server の設定を変更して JVM のプロパティを次のように定義します。 <code>-Doracle.jdbc.J2EE13Compliant=true</code> <p>さらに、Type-2 のドライバに関しては、Application Server をスタートした環境に ORACLE_HOME と LD_LIBRARY_PATH (これには \$ORACLE_HOME/lib が含まれていなければならない) を定義する必要があります。たとえば、これらを asenv.conf に追加して、確実にエクスポートします。</p>

ログ

ID	要約
5014017	<p>Appclient ログサービスが正常に動作しません。</p> <p>ファイル属性のデフォルト値が機能しません。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">ログディレクトリを作成します。新たに作成したログディレクトリへの完全なパスを sun-acc.xml ファイルに記述します。 <p>コンソールにログを出力している場合、ログレベルはその設定 (FINE、FINEST 等) にかかわらず、「INFO」レベルとなります。</p> <p>『Administration Guide to Clients』では、ログが <code>acc_dir/logs/client.log</code> にあると記されていますが、正常に動作させるためには、ログディレクトリを作成し、そのフルパス名を sun-acc.xml ファイルに記述する必要があります。</p>

Web コンテナ

この節では、Web コンテナに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6183117	<p>pdf/xls ファイル用のサーブレットフィルタを使用している場合、HTTP ヘッダーが正しくありません。</p> <p>default-web.xml にデフォルトの mime-type マッピングがありません。必要な mime-types を default-web.xml に追加します。</p> <p>解決法</p> <p>xls を提供するインスタンスの default-web.xml に次の mime-type 定義を追加します。</p> <pre><mime-mapping> <extension>xls</extension> <mime-type>application/vnd.ms-excel</mime-type> </mime-mapping></pre> <p>同様に、ほかのファイルの種類の特定の mime-type 定義を default-web.xml ファイルに追加します。</p>
6308777/ 6324326	<p>サーブレットコンテナ UTF-8 URI のマッピングに脆弱性があります。</p> <p>UTF-8 形式の URI で文字を指定することによって、JSP の ACL ベースの保護を迂回することができます。</p> <p>解決法</p> <p>URI 中のワイルドカードを受け付けないように ACL を変更したことを確認します。</p>
5089201/ 5001994	<p>getRequestURI() が、返すべきでない、エンコードされていない値を返します。</p> <p>この問題を修正すると、getRequestURI() を呼び出し、データが返されるときに URI が自動的にデコードされる、Portal Server 6.3 などの古い NSAPI のクライアントに問題が発生します。</p> <p>そのため、古い NSAPI クライアントとの下位互換性を維持するために、新しい JVM オプションを追加して古い NSAPI の動作に戻し、Portal Server が正常に機能できるようにしています。</p> <p>解決法</p> <p>Portal Server が稼動するコンピュータで JVM オプション -DJ2EEDecodeURI を有効にして、getRequestURI() 呼び出しで Cookie-less モードとほかのすべての機能を許可します。</p>

ID	要約
4951476	<p>JWSDP 1.2(1.3) がインストールされていると、<code>javax.ejb.EJBException: org/dom4j/Element</code> エラーがスローされます。</p> <p>解決法</p> <p>sever.xml ファイルの <code>server-classpath</code> に <code>dom4j-full.jar</code> を追加します。このファイルは http://dom4j.org からダウンロードできます。このファイルのエントリは、<code>server-classpath</code> 内の <code>appserv-jstl.jar</code> エントリの前に置く必要があります。</p>
4997770	<p>HTTP 404 のエラーメッセージが、依然として「Sun ONE Application Server」と表示されます。</p> <p>「Sun ONE Application Server」を「Sun Java System Application Server」と読み替えてください。</p>

Message Service とメッセージ駆動型 Beans

この節では、Java Message Service (JMS)、Sun Java System Application Server Standard Edition および Enterprise Edition、およびメッセージ駆動型 Beans の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6184426	<p>負荷テスト中に、HP-UX11.11 上で <code>ConnectException</code> エラーが発生します。</p> <p>OS レベルまたは IMQ レベルでの HP-UX TCP-IP パラメータの設定が必要です。</p> <p>解決法</p> <p>IMQ レベルで、次の変更を行います。</p> <pre>imq.portmapper.backlog=1000 imq.authentication.client.response.timeout=360 imq.jms.tcp.backlog=3000 imq.jms.max_threads=5000</pre>

ID	要約
4683029	<p>MQ Solaris スクリプト内の <code>-javahome</code> フラグは、値に空白文字が含まれていると正しく機能しません。</p> <p>Sun ONE Message Queue のコマンド行ユーティリティーには、その他の Java ランタイムを指定する <code>-javahome</code> オプションが用意されています。このオプションを使用する際、Java ランタイムのパスに空白文字を含めることはできません。空白文字を含むパスの例を示します。</p> <pre>/work/java 1.4</pre> <p>この問題は、Application Server インスタンスの起動時に発生します。Sun ONE Application Server インスタンスを起動すると、デフォルトで、対応する Sun ONE Message Queue ブローカインスタンスが起動します。このブローカは、Application Server と同じ Java ランタイムを必ず使用するよう、常に <code>-javahome</code> コマンド行オプションを使って起動します。Application Server 用に設定された Java ランタイム (ブローカでも使用可能) のパスに空白文字が含まれていると、ブローカの起動に失敗します。このため、Application Server インスタンスの起動も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Application Server の Java ランタイムのパスに空白文字が含まれていないことを確認してください。</p>

JTS (Java Transaction Service)

この節では、JTS (Java Transaction Service) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6218460	<p>JTS タイムアウトに十分に余裕がある場合でも、トランザクションタイムアウトのためにトランザクションが失敗する可能性があります。</p> <p>解決法</p> <p>Application Server の Transaction Service の <code>xaresource-txn-timeout</code> プロパティを設定し、Transaction Service 用に設定されているトランザクションタイムアウト (秒単位) と同じ値を設定します。</p>

復旧

JDBC ドライバの復旧に関する既知の問題があります。Sun Java System Application Server は、これらの問題に対していくつかの回避策を用意しています。デフォルトでは、ユーザーが明示的に指定しない限り、これらの回避策は使用されません。

- Oracle JDBC ドライバの問題 - Oracle XA Resource 実装の回復メソッドは、入力フラグとは関係なく、繰り返し同じ未確定 Xid のセットを戻します。XA 仕様によると、トランザクションマネージャーは、最初に TMSTARTSCAN を使って XAResource.recover を呼び出したあと、TMNOFLAGS を使って、Xid が戻されなくなるまで繰り返し XAResource.recover を呼び出します。

Application Server は、Oracle XA Resource の確認メソッドの問題に対する回避策も用意しています。この回避策を適用するには、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティを追加します。

```
oracle-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず **true** に設定します。

- Sybase JConnect 5.2 ドライバの問題 - JConnect 5.2 ドライバには、JConnect 5.5 では解決されている既知の問題があります。JConnect 5.2 ドライバを使用する場合は、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティを追加して、復旧を有効にしてください。

```
sybase-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず **true** に設定します。

トランザクション

server.xml ファイルでは、XA 接続と非 XA 接続の区別に res-type を使用します。これにより、データを駆動するデータソースの設定が識別されます。たとえば、Datadirect ドライバでは、同じデータソースを XA または非 XA として使用できます。

デフォルトでは、データソースは非 XA です。connpool 要素によりデータソースをトランザクションに対して XA として動作させるには、res-type が必要です。connpool 要素を正常に機能させてトランザクションに加えるには、server.xml ファイルに次の res-type 属性を追加します。

```
res-type="javax.sql.XADataSource"
```

アプリケーションの配備

この節では、アプリケーションの配備に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6078271	<p>ファイル長の問題が原因で、Windows への EAR の配備が失敗します。</p> <p>NTFS 以外のファイルシステムで稼動している Windows では、そのファイルシステムのファイル名およびパス長の制限が適用されます。</p> <p>解決法</p> <p>Windows を NTFS ファイルシステムで稼動してください。</p>
6223279	<p>jndi-name が見つからない場合、ejb-ref-name から jndi-name へのマッピングが正しく実行されません。</p> <p>ejb アプリケーションを配備する場合、XML 配備記述子 (sun-ejb-jar.xml) には、各 EJB 参照に対する <i>jndi-name</i> エントリが含まれている必要があります。次に例を示します。</p> <pre><ejb-ref> <ejb-ref-name>ejb/package_name.ejb_name</ejb-ref-name> <jndi-name>ejb/package_name.ejb_name</jndi-name> </ejb-ref></pre> <p>jndi-name エントリが見つからない場合、エラー表示されずに配備されますが、JNDI 検索によって EJB を見つけることができないため、アプリケーションは正しく動作しません。</p> <p>解決法</p> <p>JNDI 名が配備記述子内に存在することを確認します。アプリケーション実行時にこの問題が発生しないようにするには、配備の前に「ベリファイアを実行」チェックボックスを選択します。これによって、JNDI 名が見つからないことによる問題が強調されます。</p>
4725147	<p>配備する仮想サーバーを選択できません。</p> <p>この場合は、仮想サーバー 2 台をまったく同じように設定し、一方をホスト、もう一方をリスナーにします。アプリケーションが 2 台目の仮想サーバーだけに配備されている場合、この仮想サーバーにはアクセスできません。これは、host:port の組み合わせで 1 台目の仮想サーバーが指定されているからです。</p> <p>解決法</p> <p>仮想サーバーのホスト名と元のホスト名が同じにならないようにしてください。特に、同じ HTTP リスナーを使用する場合には注意が必要です。</p>
4994366	<p>ejb-local-ref と ejb-link の配備エラー</p> <p>解決法</p> <p>ejb-local-ref には ejb-link が必要です。したがって、ejb-local-ref を使用する時は ejb-link の値を指定してください。</p>

ベリファイア

この節では、ベリファイアに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742545	<p>スタンドアロンベリファイアから EJB クラスが見つからないというエラーが報告されます。</p> <p>ベリファイアは、「EJB クラスが見つかりません。」というメッセージを表示して、障害の発生したテストがあることを示します。EJB JAR ファイルによって使用されるエンタープライズ Bean が、同一の EAR アプリケーション内の別の EJB JAR ファイル内にあるほかのエンタープライズ Bean を参照する場合、テスト時に障害が発生します。コネクタ (RAR) に依存する EAR ファイルを検証しようとした場合も、障害メッセージが表示されます。これは、RAR バンドルを、RAR バンドルファイルに依存するエンタープライズ Bean が格納されている EAR ファイル内にパッケージ化する必要がないからです。障害 (コネクタ関連の障害を除く) を報告するのは、スタンドアロンベリファイアだけです。配備コマンドや管理インタフェースによって呼び出されたベリファイアでは、この障害は報告されません。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーション EAR のパッケージ化が正しいことを確認します。ユーティリティ JAR ファイルを使用している場合は、EAR ファイル内にパッケージ化されます。参照エラーを解決するには、asadmin または管理インタフェースを使って配備バックエンドからベリファイアを呼び出します。コネクタ関連の障害が発生する場合は、ベリファイアのクラスパスに、必要なクラスを持つ JAR ファイルを配置します。install_root/bin/verifier[.bat] ファイルを開き、JVM_CLASSPATH 変数の末尾に LOCAL_CLASSPATH 変数を追加します。LOCAL_CLASSPATH 変数にローカルでクラスを追加したあと、ベリファイアを実行します。</p>

ロードバランサ

この節では、ロードバランサに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6338687	<p>ロードバランサプラグインは 8K より大きな URL/URI を処理できません。</p> <p>ロードバランサプラグインによって Application Server に転送される場合は、8K より大きな URL/URI を作成しないでください。</p>

ID	要約
6262746	<p>Solaris 10 (SPARC および x86) にインストールされた Apache Web Server 上のロードバランサプラグインの設定はサポートされていません。</p> <p>解決法</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris 8 または Solaris 9 上では Apache を使用し、Solaris 10 上では Application Server を使用してください。 <p>また、</p> <ul style="list-style-type: none"> Solaris10 上では Sun Java System Web Server を使用してください。
6155134	<p>Web サーバーを起動する場合に手動でパスを設定する必要があります。</p> <p>IIS または Apache 用のロードバランサプラグインを Microsoft Windows にインストールした後で、Application Server のパスを Path 環境変数に付け加えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スタート」->「設定」->「コントロールパネル」->「システム」->「詳細設定」->「環境変数」->「システム環境変数」->「パス」の順に移動し、appserver_install_dir¥bin を追加します。 マシンを再起動する必要があります。
4761151, 4825429, 4981545	<p>ロードバランサのプラグインを経由して SSL と非 SSL の要求を断続的に送っていると、中間形式と基本認証で失敗します。「502 Bad Gateway」というエラーメッセージが表示されます。デフォルトの設定では、プロキシからコンテナへの接続性が維持されません。</p> <p>Application Server の配備および配備取消、キープアライブのタイムアウト、ロードバランサ接続プールでの接続が古くなったことなどにより、ロードバランサが Application Server への接続を持続できなくなります。この問題が発生すると、ロードバランサからの要求は失敗することがあり、エラーページが表示されます。この問題は通常、配備 / 配備取消やその他の設定変更が頻繁に行われたり、テストされたりする、開発環境で発生します。</p> <p>解決法</p> <p>appserver でのキープアライブのタイムアウトを 0 に設定してください。</p> <p>Web ベースの管理インタフェースを使って、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 管理コンソールを起動します。 「HTTP サーバー」->「チューニング」を選択します。 ページの最後のテキストボックス、「HTTP 持続的接続のタイムアウト」フィールドに 0 を入力します。 変更を適用して appserver を再起動します。 <p>コマンド行インタフェースを使用する場合は、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> appserver の init.conf に KeepAliveTimeout 0 という行を追加します。 asadmin reconfig コマンドを実行します。 appserver を再起動します。

ID	要約
4962735	<p>Linux の場合に、ロードバランサプラグインおよび <code>sec_db</code> ファイルをインストールすると Apache Web Server 1.3.27 が起動しません。</p> <p>解決法</p> <p>次の行を <code>/src/MakeFile</code> の「End of automatically generated section,」の後、「<code>OBJS= \</code>」の直前に挿入してください。また、アプリケーションサーバーのライブラリが特定の場所にインストールされていることを確認してください。</p> <pre>LIBS+= -licuuc -licu18n -lnspr4 -lpthread -lxcercs-c -lsupport -lnsprwrap -lns-httpd40 LDFLAGS+= -L/space/SJSAS/installations/lib.</pre> <p>各変数の意味は次のとおりです。<code>/space/SJSAS/installations</code> はアプリケーションサーバーがインストールされている場所です。詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』の付録、「Compiling Apache Web Server」を参照してください。</p>
5018537	<p>フェイルオーバーが実行されている時、Identity Server/Application Server の統合で「Service unavailable」というエラーが表示されます。</p> <p><code>Loadbalancer.xml</code> は Web モジュールのコンテキストルートに「/」を使用しています。フェイルオーバーの後はコンテキストルートが存在しないため、「Default」が新しい JROUTE cookie のパスに指定されます。結果として、ブラウザ側では 2 つの JROUTE cookie が存在することになります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 古い JROUTE cookie は「/」をパスとする失敗したインスタンスを指します。2. 新しい JROUTE cookie は「/Default」をパスとする新しいインスタンスを指します。 <p>ブラウザは常に古い cookie (1) を使おうとするため、結果として <code>nd failover</code> のリダイレクトとなり、ブラウザ自身に障害が起こることがあります。</p> <p>解決法</p> <p>すべての Web モジュールに特定のコンテキストルートを指定します。次に例を示します。</p> <pre><web-module context-root="appl" enabled="true" disable-timeout-in-minutes="60" error-url="appl-lberror.html" /> <web-module context-root="app2" enabled="true" disable-timeout-in-minutes="60" error-url="app2-lberror.html" /></pre> <p>フェイルオーバーの後、JROUTE は「/appl」をパスとして取得し、正常に動作します。</p>

ID	要約
5007720	<p>Web モジュール中で <code>invalid value for error-url</code> に対するログメッセージが不適切です。</p> <p><code>loadbalancer.xml</code> の <code>web-module</code> タグの <code>error-url</code> 属性が、次のように無効な値に設定された場合、</p> <pre><web-module context-root="app1" enabled="true" disable-timeout-in-minutes="60" error-url="abc"/></pre> <p>ログメッセージは次のように表示されます。</p> <pre>warning (11113): reports: lb.configurator: XML_VALIDATOR_WARNING: Invalid format for the error-url sun-http-lberror.</pre> <p>しかし、正しくは次のような表示でなければなりません。</p> <pre>warning (20015): reports: lb.configurator: XML_VALIDATOR_WARNING: Invalid format for the error-url abc</pre>

高可用性

この節では、高可用性に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6301842	<p>Windows 上で <code>ma-r</code> コマンドを実行しても、管理エージェントがサービスの登録を解除できず、エラーメッセージ「<code>Could not identify program.</code>」が出力されて失敗することがあります。</p> <p>解決法</p> <p>Windows コマンドプロンプトウィンドウを起動して、<code>sc stop HADBMgmtAgent</code> を実行後、<code>sc delete HADBMgmtAgent</code> を実行します。<code>ma -i -n servicename</code> コマンドを使用してサービスをインストールおよび起動した場合、<code>sc</code> コマンドを実行するときに <code>servicename</code> を指定してください。</p>
6293912	<p>管理エージェントが特別な用途のインタフェースを使用するべきではありません。</p> <p>解決法</p> <p>複数のインタフェースを備えたホスト上で <code>hadbm create</code> を実行する場合、常に DDN 表記を使用して IP アドレスを明示的に指定してください。</p>

ID	要約
6291562	<p>Windows で再アセンブリが失敗します。</p> <p>特定の負荷がかかっている特定の設定の Windows プラットフォームでは、オペレーティングシステム内で多数の再アセンブリが失敗する場合があります。この問題は、20 を超えるノードを使用する設定で、複数のテーブルスキャン (select *) を同時に実行する場合に発生します。このために、トランザクションが頻繁に異常終了したり、修復と復旧に長い時間がかかり、システムのさまざまな部分で頻繁にタイムアウトが発生したりします。</p> <p>解決法</p> <p>この問題を解決するには、Windows のレジストリ変数 <code>HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters</code> をデフォルト値である 100 より大きい値に設定する必要があります。この値を 0x1000 (4096) に増やすことをお勧めします。詳細については、Microsoft サポートページの記事 811003 (http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;811003) を参照してください。</p>
6275319	<p>root 以外のユーザーが HADB を管理できません。</p> <p>root として Java Enterprise System とともにインストールすると、root 以外のユーザーは HADB を管理できません。</p> <p>解決法</p> <p>HADB を管理するには常に root としてログインします。</p>
6275103	<p>セッションオブジェクトがタイムアウトになって MA で削除された場合に、hadbm 管理エージェントが不適切なエラーメッセージを返します。</p> <p>場合によっては、サーバー上のリソースの競合の問題のために管理クライアントが切断され、再接続すると、誤解を招くエラーメッセージ「hadbm:Error 22184: A password is required to connect to the management agent」が返されることがあります。</p> <p>解決法</p> <p>サーバー上でリソースの問題がないか確認し、適切な処理 (リソースの追加など) を実行して、操作を再試行します。</p>
6273681	<p>グローバルゾーンとローカルゾーンの管理エージェントが干渉する場合があります。</p> <p>Solaris 10 では、グローバルゾーンで ma-initd スクリプトを使用して管理エージェントを停止すると、ローカルゾーンの管理エージェントも停止します。</p> <p>解決法</p> <p>グローバルゾーンとローカルゾーンの両方に管理エージェントをインストールしないようにします。</p>

ID	要約
6271063	<p>インストールまたは削除操作時に symlink が保持されます。</p> <p>HADB c パッケージ (Solaris: SUNWhadb, Linux: sun-hadb-c) バージョン <m.n.u-p> のインストールまたは削除時に、既存の symlink /opt/SUNWhadb/<m> が処理されません。このために、孤立した symlink が存在する可能性があります。</p> <p>解決法</p> <p>インストール前またはアンインストール後に使用しない symlink を削除します。</p>
6265419	<p>HADB Version 4.4.2.5 から HADB Version 4.4.1.7 にダウングレードすると、管理エージェントがさまざまなエラーコードで失敗します。</p> <p>以前の HADB のバージョンにダウングレードすると、管理エージェントがさまざまなエラーコードで失敗する場合があります。</p> <p>解決法</p> <p>リポジトリオブジェクトに変更を加えた場合、HADB データベースをダウングレードできても、管理エージェントをダウンロードできないことがあります。ダウングレードした後で、最新バージョンの HADB の管理エージェントを使用する必要があります。</p>
6262824	<p>hadbm は、大文字を含むパスワードをサポートしていません。</p> <p>パスワードが hadb に保存されるときに、パスワード中の大文字は小文字に変換されます。</p> <p>解決法</p> <p>大文字を含むパスワードを使用しないようにします。</p>

ID	要約
6173886, 6253132	<p>hadbm createdomain が失敗する可能性があります。</p> <p>複数のネットワークインタフェースを使用してホスト上で管理エージェントを実行した場合、すべてのネットワークインタフェースが同じサブネット上に存在しないと createdomain コマンドが失敗する可能性があります。</p> <pre>hadbm:Error 22020: The management agents could not establish a domain, please check that the hosts can communicate with UDP multicast.</pre> <p>管理エージェントは、その他の設定が行われていなければ UDP マルチキャストの「最初」のインタフェースを使用します(「最初」であることは <code>java.net.NetworkInterface.getNetworkInterfaces()</code> から返される結果によって定義される)。</p> <p>解決法</p> <p>もっともお勧めする解決法は、管理エージェントに使用するサブネットを指示することです(設定ファイル内で <code>ma.server.mainternal.interfaces</code> を使用。たとえば、<code>ma.server.mainternal.interfaces=10.11.100.0</code>)。または、サブネット間でルーター設定して、マルチキャストパケットの経路を設定することもできます(管理エージェントはマルチキャストアドレス <code>228.8.8.8</code> を使用)。</p> <p>管理エージェントを新しく設定して再試行する前に、管理エージェントのリポジトリをクリーンアップする必要があります。ドメイン内のすべてのエージェントを停止させ、リポジトリディレクトリ内のすべてのファイルとディレクトリを削除します(管理エージェントの設定ファイル内の <code>repository.dr.path</code> によって識別される)。新しい設定ファイルを使用して再起動する前に、この操作をすべてのホスト上で実行する必要があります。</p>
6249685	<p>Linux 上では、clu_trans_srv プロセスを中断することができません。</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 3.0 の 64 ビットバージョンには、非同期の I/O を実行すると <code>clu_trans_srv</code> プロセスが連続(中断不可)モードになってしまうというバグがあります。つまり、<code>kill -9</code> が機能しないので、オペレーティングシステムを再起動する必要があります。</p> <p>解決法</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 3.0 の 32 ビットバージョンを使用してください。</p>

ID	要約
6230792, 6230415	<p data-bbox="319 241 1172 265">HADB の起動、停止、再設定に失敗したり、ハングアップすることがあります。</p> <p data-bbox="319 288 1300 369">Solaris 10 を実行している AMD Opteron™ システムでは、<code>hadbm</code> コマンドを使用して HADB を起動、停止、再設定すると、次のいずれかのエラーによって失敗したり、ハングアップすることがあります。</p> <pre data-bbox="319 392 1293 440">hadbm:Error 22009: The command issued had no progress in the last 300 seconds.</pre> <pre data-bbox="319 465 1272 517">HADB-E-21070: The operation did not complete within the time limit, but has not been cancelled and may complete at a later time.</pre> <p data-bbox="319 541 1300 623">この現象は、<code>clu_noman_srv</code> プロセスが使用するファイル (<code>nomandev</code>) の読み取り / 書き込みの実行中に矛盾があると発生します。この問題は、HADB 履歴ファイルで次のメッセージを探すことで検出できます。</p> <pre data-bbox="319 645 1272 697">n:3 NSUP INF 2005-02-11 18:00:33.844 p:731 Child process noman3 733 does not respond.</pre> <pre data-bbox="319 722 1293 774">n:3 NSUP INF 2005-02-11 18:00:33.844 p:731 Have not heard from it in 104.537454 sec</pre> <pre data-bbox="319 796 1272 848">n:3 NSUP INF 2005-02-11 18:00:33.844 p:731 Child process noman3 733 did not start.</pre> <p data-bbox="319 871 391 895">解決法</p> <p data-bbox="319 918 1208 942">この問題を解決するには、影響を受けるノードに対して次のコマンドを実行します。</p> <pre data-bbox="319 965 879 984">hadbm restartnode --level=clear <i>nodeno dbname</i></pre> <p data-bbox="319 1006 1293 1058">ノードのすべてのデバイスが再初期化されます。再初期化の前にノードを停止する必要があるかもしれません。</p>
なし	<p data-bbox="319 1083 765 1107">HADB データベースの作成に失敗します。</p> <p data-bbox="319 1130 1293 1182">次のエラーによって、新しいデータベースの作成に失敗します。このエラーは、使用可能な共有メモリーセグメントが足りないことを示しています。</p> <pre data-bbox="319 1204 1293 1286">HADB-E-21054: System resource is unavailable : HADB-S-05512: Attaching shared memory segment with key "xxxxxx" failed, OS status=24 OS error message: Too many open files.</pre> <p data-bbox="319 1308 391 1333">解決法</p> <p data-bbox="319 1355 1293 1442">共有メモリーが設定されていて、その設定が機能していることを確認します。特に、Solaris 8 では、ファイル <code>/etc/system</code> を調べて、変数 <code>shmsys:shminfo_shmseg</code> の値が、ホストあたりのノード数の少なくとも 6 倍になっていることを確認します。</p>

ID	要約
6232140	<p>管理エージェントの終了時に、「IPV6_MULTICAST_IF failed」例外が発生します。</p> <p>複数の NIC カードを装着した Solaris 8 環境のホスト上で、IPv6 対応と IPv4 対応のカードが混在していると、管理エージェントの終了時に「IPV6_MULTICAST_IF failed」例外が発生する場合があります。根本的な原因については、バグ ID 4418866 および 4418865 を参照してください。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. 環境変数 <code>_JAVA_OPTIONS</code> を次のように設定します。 <pre>\$> export _JAVA_OPTIONS="-Djava.net.preferIPv4Stack=true"</pre>2. または、Solaris 9 を使用します。
6171832/ 6172138	<p>無効なセッションが削除されないため、HADB パフォーマンスが低下したり、データデバイスの空き領域がなくなったりします。</p> <p>解決法</p> <p>無効なセッションを効率的に削除するには、<code>sun-ejb-jar.xml</code> ファイルを変更して、<code>cache-idle-timeout-in-seconds</code> の値を <code>removal-timeout-in-seconds</code> の値よりも小さく設定します。</p> <p><code>cache-idle-timeout-in-seconds</code> の値が <code>removal-timeout-in-seconds</code> の値と等しいかまたは上回る場合、HADB では古いセッションが削除されないことが予想されます。</p> <p>これらのプロパティを推奨値に設定した後も、無効なセッションの問題が引き続き発生する場合は、製品サポートに連絡してください。</p>
6171994	<p><code>security.policy</code> ファイル内の不適切なアクセス権により、起動がハングアップします。</p> <p>説明</p> <p><code>security.policy</code> ファイル内にある <code>hadb-jdbc</code> のアクセス権が不適切です。</p> <p>解決法</p> <p>起動時に断続的なハングアップが発生する場合、<code>security.policy</code> ファイルに推奨される次のアクセス権を追加します。</p> <p>デフォルトで含まれているアクセス権：</p> <pre>permission java.net.SocketPermission "*", "connect";</pre> <p>推奨されるアクセス権：</p> <pre>permission java.net.SocketPermission "*", "connect accept,listen,resolve";</pre>

ID	要約
5042351	<p data-bbox="319 241 1186 260">新規ノードの追加後に作成された新規テーブルが、追加ノードに配信されません。</p> <p data-bbox="319 286 365 305">説明</p> <p data-bbox="319 331 1296 444">データベースインスタンスを作成し、それにノードを追加すると、データベース作成以後に追加されたノード上で、新しく作成されたテーブルが断片化されません。hadbm addnodes がテーブルを再断片化した場合に、addnodes の前に作成されたテーブルだけが追加されたノードを使用することができます。</p> <p data-bbox="319 470 1296 519">これは、create table が、データベースの起動時、つまり hadbm create の実行時に作成される sysnode node グループを使用するからです。</p> <p data-bbox="319 545 391 564">解決法</p> <p data-bbox="319 590 1296 638">新規テーブルが追加されたあとで hadbm refragment を実行するか、<i>all_nodes</i> ノードグループに新規テーブルを作成します。</p>
6158393	<p data-bbox="319 664 1243 683">HADB を RedHat AS 3.0 と同じ場所に配置すると負荷が高い場合に問題が発生します。</p> <p data-bbox="319 710 365 729">説明</p> <p data-bbox="319 755 1296 836">HADB は、Application Server と同じ場所に配置された RedHat Linux AS 3.0 上で稼働します。トランザクションが異常終了して、パフォーマンスに影響する可能性があります。これは、オペレーティングシステムによって過剰なスワップが行われるからです。</p> <p data-bbox="319 862 391 881">解決法</p> <p data-bbox="319 907 1296 956">この問題は、RedHat Linux AS 3.0 Update 4 に対して HADB をテストした時点では解決されていたようです。</p>

ID	要約
6214601	<p>hadbm が sysroot スキーマのユーザーテーブルを検索するため、Addnodes が失敗し、「表が見つかりません」というエラーが表示されます。</p> <p>説明</p> <p>hadbm refragment コマンドが次のエラーで失敗します。</p> <pre>hadbm:Error 22042: Database could not be refragmented.Please retry with hadbm refragment command to refragment the database.. Caused by: HADB-E-11701: *Table singlesignon not found*</pre> <p>解決法</p> <p>clusql を次のように使用して、Application Server テーブルを手動で再断片化します。</p> <pre>> clusql server:port list> system+dbpassword specified at database create> SQL: set autocommit on; SQL: set schema haschema; SQL: alter table sessionattribute nodegroup all_nodes; SQL: alter table singlesignon nodegroup all_nodes; SQL: alter table statefulsessionbean nodegroup all_nodes; SQL: alter table sessionheader nodegroup all_nodes; SQL: alter table blobsessions nodegroup all_nodes; SQL: quit;</pre>
6159633	<p>configure-ha-cluster がハングアップすることがあります。</p> <p>説明</p> <p>asadmin configure-ha-cluster コマンドを使用して複数のホストに高可用性のクラスタを作成または設定する場合に、コマンドがハングアップします。HADB 管理エージェントまたは Application Server からは、例外がスローされません。</p> <p>解決法</p> <p>HADB は、データベースクラスタ内のノード全体におよび異機種混在パスをサポートしていません。HADB サーバーのインストールディレクトリと設定ディレクトリが、参加ホスト全体で同じになっていることを確認してください。</p> <p>さらに、コマンドをもう 1 度実行する前に、リポジトリディレクトリをクリアしてください。</p>

ID	要約
6197822	<p>hadbm set によって、データベースインスタンスが回復の困難な状態になります。</p> <p>説明</p> <p>このシナリオでは、一部のデータベース設定変数の変更を試みた場合に hadbm set コマンドが失敗します。たとえば、DataBufferPoolSize をより大きなサイズに設定しようとする、ノード 0 の共有メモリ不足のために失敗します。次に、hadbm set コマンドは、ノード 0 のデータベースを停止状態に、ノード 1 のデータベースを実行状態にします。hadbm set を使用してプールサイズを元の値にリセットしようすると、失敗して次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>22073: The operation requires restart of node 1. Its mirror node is currently not available. Use hadbm status --nodes to see the status of the nodes.</p> <p>この場合、hadbm startnode 0 も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>データベースを停止して、hadbm set を使用して元の値を復元し、データベースを再起動します。</p>
6200133	<p>configure-ha-cluster での障害。HADB インスタンスの作成が失敗します。</p> <p>説明</p> <p>HADB クラスタの作成を試みると、失敗して次のメッセージが表示されます。</p> <p>HADB-E-00208: The transaction was aborted.</p> <p>SQL ディクショナリ表に格納されている起動トランザクションは異常終了します。</p> <p>解決法</p> <p>configure-ha-cluster コマンドをもう一度実行します。hadbm create コマンドを実行して前述のエラーメッセージが表示された場合は、再実行します。</p>
5091349	<p>異機種インストールパスがサポートされていません。</p> <p>同じ名前の同じソフトウェアパッケージを、異なる場所の異なるホストで登録することはできません。</p> <p>解決法</p> <p>HADB は、データベースクラスタ内のノード全体におよび異機種混在パスをサポートしていません。HADB サーバーのインストールディレクトリと設定ディレクトリが、参加ホスト全体で同じになっていることを確認してください。</p>

ID	要約
5091280	<p>habdm set はリソースの可用性 (ディスクとメモリーの空き容量) をチェックしません。</p> <p>シナリオ</p> <p>habdm set を使用して、デバイスまたはバッファのサイズを大きくしています。</p> <p>説明</p> <p>管理システムは、データベースを作成する場合やノードを追加する場合にリソースの可用性をチェックしますが、デバイスまたはメインメモリーバッファのサイズを変更する場合には、十分なリソースが使用可能かどうかをチェックしません。</p> <p>解決法</p> <p>devicesize または buffersize 設定属性の値を大きくする前に、すべてのホストにディスクとメモリーの十分な空き容量があることを確認してください。</p>
4855623	<p>ノードのホストのいずれかがダウンしていると、habdm stop コマンドが終了しない。</p> <p>ネットワーク上の問題により HADB ノードが shutdown メッセージを受け取らない場合、habdm stop コマンドはデータベースを完全に停止できないことがあります。通常は、habdm コマンドを完了するのに 60 秒以上かかります。この場合、habdm stop/delete コマンドが動作しません。停止するノードを指定する必要があります。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. “habdm status --nodes” コマンドを使用して、引き続き有効になっているノードを確認します。2. 一部実行中の各ノードに対して、「habdm stopnode -f node_number」を実行します。
4861337	<p>hadm stoppdb の実行中にアクティブデータノードに障害が起こると、hadm startpdb コマンドの実行に失敗します。</p> <p>データベースを起動できない場合、habdm status コマンドは non-operational を返します。</p> <p>解決法</p> <p>この問題を解決するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. habdm clear --fast を実行します。 <p>このコマンドにより、システム内の各マシンについて address in use というタイプの障害が報告された場合は、ログインして clu_ で始まるすべてのプロセスを強制終了します。</p> <ol style="list-style-type: none">2. habdm clear --fast コマンドをもう一度実行します。 <p>これにより、すべてのデータが消え、データベースが再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none">3. セッションストアを作成し直します。 <p>セッションストア作成の詳細は、『Sun Java System Application Server Administration Guide』を参照してください。</p>

ID	要約
4958827	<p data-bbox="319 239 829 262">子プロセスのトランザクションが応答しません。</p> <p data-bbox="319 286 1305 458">ホストマシンが複数の HADB を収納し、すべてのノードがそれぞれのデバイスを同一のディスクに設置すると、ディスク I/O がボトルネックになります。HADB プロセスは非同期 I/O を待機しているため、ノード監視プログラムの heartbeat check には応答しません。したがって、ノード監視プログラムはこのプロセスを再起動することになります。この問題は、どのようなオペレーティングシステムでも起こる可能性があります。今のところ、Red Hat Linux AS 2.1 および 3 で確認されています。</p> <p data-bbox="319 477 391 499">解決法</p> <p data-bbox="319 524 1305 579">同一のマシンに存在する、異なる HADB ノードのデバイスに対して、別々のディスクを使用します。</p>
なし	<p data-bbox="319 598 715 621">ダブルネットワークでの HADB 設定</p> <p data-bbox="319 645 1305 788">2 つのサブネット上にダブルネットワークで設定された HADB は、Solaris SPARC 上では正常に動作します。しかし、一部のハードウェアプラットフォームでのオペレーティングシステムまたはネットワークドライバの問題で、Solaris x86 および Linux プラットフォームではダブルネットワークを適切に処理できないことが確認されました。これにより、HADB に次のような問題が発生します。</p> <ul data-bbox="319 807 1305 1117" style="list-style-type: none">• Linux では、HADB プロセスでメッセージ送信がブロックされることがあります。これにより、HADB ノードが再起動し、ネットワークパーティションが発生します。• Solaris x86 では、ネットワークに障害が発生すると、何らかの問題によってほかのネットワークインタフェースへの切り替えが禁止される場合があります。この問題は常時発生するわけではありませんが、ネットワークは 1 つよりも 2 つ使用することを推奨します。このような問題は、Solaris 10 では部分的に解決されました。• Trunking はサポートされていません。• HADB は、Microsoft Windows 2003 上でのダブルネットワークをサポートしていません (バグ ID 5103186)。

サーバーの管理

この節では、次のトピックを取り上げます。

- [コマンド行インタフェース \(CLI\)](#)
- [管理インフラストラクチャー](#)
- [管理インタフェース](#)

コマンド行インタフェース (CLI)

この節では、コマンド行インタフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676889	<p>シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、オーバーフローが発生します。</p> <p>UNIX® では、シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、コマンドの実行に失敗し、「コマンドが見つかりません」というエラーが表示されます。</p> <p>CLI の制限ではありません。</p> <p>次に例を示します。</p> <pre>create-jdbc-connection-pool --instance server4 --datasourceuser admin --datasourcepassword adminadmin --datasourceclassname test --datasourceurl test --minpoolsize=8 --maxpoolsize=32 --maxwait=60000 --poolresize=2 --idletimeout=300 --connectionvalidate=false --validationmethod=auto-commit --failconnection=false --description test sample_connectionpoolid)</pre> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. 実行するコマンドの文字数が 256 文字を超える場合は、マルチモードを使用してください。2. シングルモードを使用する必要がある場合は、OpenWindows コマンドツール (cmdtool) を使ってコマンドを実行してください。

管理インフラストラクチャー

この節では、管理インフラストラクチャーに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6245376	<p>仮想サーバーの削除後に仮想サーバーの <code>obj.conf</code> が削除されません。</p> <p>デフォルトでは、仮想サーバーの設定ファイルは仮想サーバーの削除後にファイルシステムから削除されません。</p> <p>解決法</p> <p>削除された仮想サーバーの <code>virtual_server-obj.conf</code> ファイルを手動で削除します。</p>
4686003	<p>HTTP の QOS 制限が適用されません。</p> <p>サービス品質 (QOS) では、最大 HTTP 接続数と帯域幅を指定できます。これらの属性の制限値を超えると、クライアントに 503 エラーが戻されます。しかし、管理インタフェースを使って QOS を有効にすると、サーバーは QOS の制限を適用しなくなります。</p> <p>解決法</p> <p>QOS 機能をすべて有効にするには、仮想サーバーの <code>obj.conf</code> ファイル内のデフォルトオブジェクトの先頭に <code>AuthTrans fn=qos-handler</code> 行を手動で追加します。<code>qos-handler</code> サーバーアプリケーション関数 (SAF) と <code>obj.conf</code> 設定ファイルについては、『Developer's Guide to NSAPI』を参照してください。</p>
4740022	<p>新しいインスタンスサーバーを追加して起動すると、<code>SNMP: END OF MIB</code> メッセージが表示されます。</p> <p>インスタンスサーバーとサブエージェントをシャットダウンしないで新しいインスタンスを追加し、起動すると、<code>END OF MIB</code> メッセージが返されます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">新しいインスタンスを表示するには、サブエージェントとすべてのインスタンスサーバープロセスをシャットダウンします。各サーバーで、「監視」の「SNMP 統計収集を有効」をオンに設定します。その後、各インスタンスサーバーを再起動し、サブエージェントプロセスを1つだけ再起動します。サブエージェントがすでに実行中の場合は、これ以上起動しないでください。<code>Application Server</code> をインストールするときは、必ずマスターエージェントとサブエージェントを1つずつ使用します (全ドメイン、全インスタンスに共通)。

ID	要約
4865739	<p>server.xml 内のインスタンスポートのネガティブテストによって domains.bin が壊れます。</p> <p>ポート番号または IP アドレス、あるいはその両方に英字が含まれている場合は、新しいインスタンスを作成できないため、現在のインスタンスが管理不能になります。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. server.xml ファイルとバックアップ用の server.xml ファイルを編集し、ポート番号または IP アドレス (あるいはその両方) を訂正します。2. keepmanualchanges=true オプションを使って asadmin reconfig コマンドを実行します。3. 管理インタフェースを使用し、「Administration (管理)」ツリーでインスタンス名を選択して、インスタンスを停止します。4. 管理サーバーとアプリケーションサーバーインスタンスを再起動します。

管理インタフェース

管理インタフェースを使用するときは、ブラウザがキャッシュからではなくサーバーから最新のページを取り出す設定になっているかどうかを確認してください。一般に、デフォルトのブラウザ設定では問題は発生しません。

- Internet Explorer では、「ツール」->「インターネットオプション」->「設定」を選択し、「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「確認しない」が選択されていないことを確認します。
- Netscape では、「編集」->「設定」->「詳細」->「キャッシュ」を選択し、「キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較」で「しない」が選択されていないことを確認します。

この節では、管理用グラフィカルユーザーインターフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6371019	<p>Application Server の管理コンソールに、「ファイルキャッシュを有効にする」がデフォルトで無効と表示されます。</p> <p>Application Server 7 は FileCache 構成をサポートします。ファイルキャッシュオプションはデフォルトで有効です。ただし、OS で PR_TransmitFile がネイティブでサポートされるプラットフォームでは、管理コンソールでファイルキャッシュは無効と表示されますが、これは正しくありません。</p> <p>回避策</p> <p>次の場所にある nsfc.conf ファイルに、必要なプロパティを手動で追加します。</p> <pre>AS_INSTALL/domains/<domain-name>/<server-name>/config/</pre> <p>このファイルが存在しない場合は、作成します。</p> <p>参考のために、このファイルの設定例を示します。</p> <pre>FileCacheEnable=true TransmitFile=true HashInitSize=2049 MaxAge=30 MediumFileSizeLimit=537600 SmallFileSizeLimit=2048 MediumFileSpace=10485760 SmallFileSpace=1048576 MaxFiles=1024</pre>

ID	要約
4725473	<p data-bbox="241 241 1185 260">管理インタフェースのニックネーム一覧に外部証明書のニックネームが表示されません。</p> <p data-bbox="241 286 1225 399">Application Server 管理インタフェースを使って外部証明書をインストールした場合、外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書を使って HTTP リスナーで SSL を有効にしようとする問題が発生します。証明書は正しくインストールされていますが、管理インタフェースに証明書のニックネームが表示されません。</p> <p data-bbox="241 421 311 440">解決法</p> <ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="241 466 1206 519">1. 管理ユーザーとして、Sun ONE Application Server のインストールマシンにログインします。<li data-bbox="241 541 1213 623">2. HTTP リスナーと外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書をリンクします。asadmin コマンドを実行します。asadmin コマンドの詳細については、asadmin(1M) のマニュアルページを参照してください。 <pre data-bbox="241 645 825 930">/sun/appserver7/bin/asadmin create-ssl --user admin --password <i>password</i> --host <i>host_name</i> --port 8888 --type http-listener --certname nobody@apprealm:Server-Cert --instance server1 --ssl3enabled=true --ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5 http-listener-1</pre><p data-bbox="241 956 1218 1069">このコマンドは、証明書とサーバーインスタンスをリンクします。証明書のインストールは行いません。証明書は管理インタフェースを使用してインストール済みです。証明書と HTTP リスナーのリンクは確立されていますが、HTTP リスナーは非 SSL モードでリスンします。</p><li data-bbox="241 1091 1210 1144">3. 次の CLI コマンドを使って、HTTP リスナーが SSL モードでリスンするように設定します。 <pre data-bbox="241 1166 1110 1333">/sun/appserver7/bin/asadmin set --user admin --password <i>password</i> --host <i>host_name</i> --port 8888 server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true</pre><p data-bbox="241 1359 1199 1411">このコマンドは、サーバーインスタンスのリスンモードを非 SSL から SSL へ切り替えます。</p><p data-bbox="241 1433 1011 1453">上記の手順が完了すると、管理インタフェースに証明書が表示されます。</p><li data-bbox="241 1479 1196 1498">4. これで、管理インタフェースを使って HTTP リスナーを編集できる状態になりました。

ID	要約
4760939	<p>SSL: certutil によって生成された自動署名証明書が「Certificate Nickname (証明書ニックネーム)」リストに表示されません。</p> <p>自動署名証明書が certutil によって生成されていると、管理インタフェースに「Certificate Nickname (証明書ニックネーム)」が表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>自動署名証明書を使用する場合は、<code>server.xml</code> ファイルを手動で編集する必要があります。</p>
4991824	<p>管理コンソールから SSL を有効化した後、再起動するとタイムアウトとなります。</p> <p>解決法</p> <p>SSL を有効化した後は、インスタンスを再起動する代わりに、サーバーをいったん停止して起動します。</p>
4988332	<p>何の変更もしていないのに、「変更の適用が必要です」のアイコンが表示されます。</p> <p>管理コンソールでは、アプリケーションサーバーインスタンスのプロパティまたは設定を表示すると、設定がまったく変更されていないなくても「変更の適用が必要です」というアイコンが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>このメッセージは1回だけ表示され、アプリケーションサーバーに対しては何の変更も加えません。このメッセージが表示されたら、「変更の適用」を選択します。</p>
5011969	<p>Solaris x86 の場合に、管理インタフェースの HTTP リスナーと IIOP リスナーのページでエラーが生じます。</p> <p>解決法</p> <p>この問題は、特定バージョンの <code>jss3.jar</code> で発生します。2つの回避策があります。</p> <p>パッチレベル 115924-03、115925-03、115926-03、115927-03 では、<code>SUNWjss</code> パッケージを最新バージョンでアップグレードします。</p> <p>次の指示に従って、サーバーのクラスパスから <code>jss3.jar</code> へのパスを削除します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <code>server.xml</code> を開いて編集します。 クラスパスから <code>usr/share/lib/mps/secv1/jss3.jar</code> を削除します。 <p>明示的に変更していない限り、このエントリはクラスパスの最初のエントリです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <code>server.xml</code> を保存し、<code>asadmin reconfig</code> を実行します。 サーバーインスタンスを開始する前に、<code>jss3.jar</code> の名前を変更する必要もあります。

サンプルアプリケーション

この節では、サンプルアプリケーションに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
5048279	<p>JDBC レルム認証サンプルのコンパイル前のタスクのセクションの手順 1 と 2 が不完全です。</p> <p>解決法</p> <p>適切な手順 1 と 2 は次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none">PointBase データベースサーバーを起動します。 <i>appserver_install_root</i>/pointbase/server ディレクトリに移動し、StartServer.sh スクリプトを実行します。PointBase コンソールを起動します。<ul style="list-style-type: none"><i>appserver_install_root</i>/pointbase/client_tools ディレクトリに移動し、PB_console.sh スクリプトを実行します。データベースの URL は jdbc:pointbase:server://localhost/sun-appserv-samples です。デフォルトの管理ユーザー名は security です。デフォルトの管理パスワードは security です。PUBLIC.user_tbl が存在し、ユーザーを含んでいることを確認します。<ul style="list-style-type: none">「カタログ」->「カタログ」メニュー項目に移動します。データベースカタログ内で、PUBLIC、TABLES、USER_TBL ノードに移動します。USER_TBL ノードを右クリックし、ポップアップメニューの「SELECT * FROM "PUBLIC"."USER_TBL"」をクリックします。

ID	要約
4739854	<p data-bbox="319 239 951 262">asadmin を使ったリソースの配備方法の説明がありません。</p> <p data-bbox="319 286 1305 340">一部のサンプルのマニュアルには、asadmin コマンドを使ってアプリケーションを配備するようにと記述されているだけで、必要なリソースを作成する手順が記載されていません。</p> <p data-bbox="319 361 391 383">解決法</p> <p data-bbox="319 407 1305 491">asadmin コマンドを使ってアプリケーションまたはリソースを配備できます。サンプルの build.xml ファイルからは詳細情報を取得できます。詳細情報は、asant deploy の実行結果からも確認できます。</p> <p data-bbox="319 512 1305 595">JDBC/BLOB の例の場合、次の手順で、asadmin を使ってリソースを作成します。ホスト名は jackiel2 とし、管理サーバーのユーザー名 / パスワード / ポートは、それぞれ admin/adminadmin/4848 とします。</p> <pre data-bbox="319 616 1305 892">asadmin create-jdbc-connection-pool --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin jdbc-simple-pool --datasourceclassname com.pointbase.jdbc.jdbcDataSource --instance server1 asadmin set --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin server1.jdbc-connection-pool.jdbc-simple-pool.property.DatabaseName=j dbc:pointbase:server://localhost/sun-appserv-samples</pre>

ID	要約
4993620	<p data-bbox="241 241 965 267">複数の XA 接続があるとき、afterCompletion() が false となります。</p> <p data-bbox="241 288 1219 399">samples/transactions/ejb/cmt/bank アプリケーションの改訂版を使用 - BankBean ejb は 2 種類のデータベース、1 つは当座預金口座、もう 1 つは貯蓄預金口座に接続します。oracle.jdbc.xa.client.OracleXADataSource データソース向けに設定した 2 つの接続プールが作成してあり、グローバルトランザクションが有効になっています。</p> <p data-bbox="241 420 1219 505">スタンドアロンのクライアントを実行し、振替、当座預金の残高確認、貯蓄預金の残高確認を行うと、次の 3 つのリモート呼び出しが発生します。transferBalance()、getCheckingBalance() および getSavingsBalance()</p> <p data-bbox="241 526 1219 611">すべてのデータベースオペレーションは正しく実行されていますが、getCheckingBalance() 呼び出しに対する afterCompletion は、committed=false となります。</p> <p data-bbox="241 631 629 657">たとえば、次のことが実行されます。</p> <pre data-bbox="241 678 1219 789">appclient -client /space/S1AS/installation/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/transactions-bank_13/transact -name BankClient -textauth com.sun.jndi.cosnaming.CNCTXFactory iiop://localhost:3700</pre> <p data-bbox="241 810 1219 895">結果は次のようになります。複数の XA 接続で、データベースの読み取り操作のみ実行するステートフルセッション Bean の tx は成功していますが、afterCompletion() は false を返します。</p> <p data-bbox="241 916 311 942">解決法</p> <p data-bbox="241 963 748 989">現在の JTS の実装は、これをサポートしません。</p>

ID	要約
5016748	<p data-bbox="319 239 1300 296">Java クライアントを使った SFSB フェイルオーバーのサンプルアプリケーション実行について、説明が正しくありません。</p> <p data-bbox="319 314 1279 371">サンプルアプリケーションのマニュアルにある、SFSB フェイルオーバーのサンプルアプリケーションを実行する java コマンドが正しくありません。</p> <p data-bbox="319 383 391 406">解決法</p> <p data-bbox="319 418 1300 499">Java クライアントでの <code>sfsbFailover</code> 実行について、正しい説明は次のとおりです。ACC なしのローカルまたはリモート RMI/IIOP ベースのクライアントで、<code>sfsbFailover</code> を実行します。</p> <p data-bbox="319 499 1300 581">ACC (アプリケーションクライアントコンテナ) のインタフェースなしで Java クライアントを実行します。ローカルマシン (<code>ashost</code>) またはリモートマシンで実行できます。クライアントアプリケーションはコマンド行から実行します。</p> <pre data-bbox="319 591 1279 835"> java -Djava.library.path=\$AS_INSTALL/lib:/usr/lib/mps -Dcom.sun.CORBA.connection.ORBSocketFactoryClass=com.sun.enterprise.iiop.EEIIOPSocketFactory -Dorg.omg.PortableInterceptor.ORBInitializerClass=com.sun.appserv.iiop.EEORBInitializer -Dorg.omg.CORBA.ORBClass=com.sun.enterprise.iiop.POAEBORB -Dorg.omg.CORBA.ORBSingletonClass=com.sun.corba.ee.internal.corba.ORBSingleton -Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.sun.corba.ee.internal.POA.ShutdownUtilDelegate -classpath <CP> <ClientApp> java.naming.factory.initial=com.sun.appserv.naming.SIASCtxFactory com.sun.appserv.iiop.loadbalancingpolicy=ic-based com.sun.appserv.iiop.endpoints=host:port,host:port </pre> <p data-bbox="319 852 662 874">各変数の意味は次のとおりです。</p> <ul data-bbox="319 899 1279 956" style="list-style-type: none"> • CP には、クラスパス用に <code>sfsbFailover.jar</code>、<code>appserv-rt.jar</code>、<code>appserv-ext.jar</code>、<code>appserver-rt-ee.jar</code>、<code>appserv-admin.jar</code> の 5 つの jar ファイルが含まれています。 <p data-bbox="319 973 1290 1031"><code>sfsbFailoverClient.jar</code> のファイルは、次の配備ディレクトリから現在のディレクトリにコピーされます。</p> <pre data-bbox="319 1031 1215 1053">install_dir/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/sfsbFailover_1</pre> <p data-bbox="319 1060 1300 1117">ほかの jar ファイルは AS インストール <code>install_dir/lib</code> から現在のディレクトリにコピーされます。</p> <p data-bbox="319 1124 1308 1315">クライアントアプリケーションをリモートマシンで実行する場合は、<code>sfsbFailoverClient.jar</code> とほかの 3 つの appserver jar ファイルをクライアントマシンに移動する必要があります。ACC あり、または ACC なしのアプリケーションクライアントを実行する例として、<code>sfsbFailoverClient.jar</code> を使いましたが、このファイルには、ACC を使わない場合に最低限必要なもの以外のファイルも含まれています。ACC なしのリモートマシン上でこの例を実行するのに最低限必要なファイルは、<code>appserv-ext.jar</code> と、<code>sfsbFailoverClient.jar</code> から抽出した次のファイルです。</p> <pre data-bbox="319 1326 1300 1459"> samples/ejb/stateful/simple/ejb/Cart.class-リモートインタフェース samples/ejb/stateful/simple/ejb/CartHome.class-ホームインタフェース samples/ejb/stateful/simple/ejb/_Cart_Stub.class-リモートスタブ samples/ejb/stateful/simple/ejb/_CartHome_Stub.class-ホームスタブ samples/ejb/stateful/simple/client/CartClient.class-クライアントアプリケーションのメインクラス </pre> <p data-bbox="319 1472 1300 1553"><code>appserv-ext.jar</code> のファイルはクライアントマシンに必要です。このファイルには、クライアントが必要とする <code>javax.ejb</code> パッケージ、および必要とする可能性のある J2EE API の実装とインタフェースが含まれているためです。</p> <ul data-bbox="319 1564 1290 1621" style="list-style-type: none"> • ClientApp とは、クライアントプログラムを表します。この例では次のものを指します。 <code>samples.ejb.stateful.simple.client.CartClient</code>

ID	要約
5016748 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> URL とは、ホスト名 (ashost など) および ORB ポート (3700 など) を持ったクラスタの一部として稼動しているアプリケーションサーバーのリストで、コンマで区切られたものを指します。次に例を示します。 <pre>ashost:3700,ashost:3701,ashost:3702</pre> <p>このコマンドの完全な例は次のとおりです。</p> <pre>java -Djava.library.path=\$AS_INSTALL/lib:/usr/lib/mps -Dcom.sun.CORBA.connection.ORBConnectionFactoryClass=com.sun.enterprise.iioop.EEIIOPSocketFactory -Dorg.omg.PortableInterceptor.ORBInitializerClass=com.sun.appserv.ee.iioop.EEORBInitializer -Dorg.omg.CORBA.ORBClass=com.sun.enterprise.iioop.POAEBORB -Dorg.omg.CORBA.ORBSingletonClass=com.sun.corba.ee.internal.corba.ORBSingleton -Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.sun.corba.ee.internal.POA.ShutdownUtilDelegate -classpath sfsbFailoverClient.jar:appserv-ext.jar:appserv-rt.jar:appserv-rt-ee.jar:appserv-admin.jar samples.ejb.stateful.simple.client.CartClient java.naming.factory.initial=com.sun.appserv.naming.SIASCtxFactory com.sun.appserv.iioop.loadbalancingpolicy=ic-based com.sun.appserv.iioop.endpoints=localhost:3700,localhost:3701</pre> <p>このコマンドを実行する前に、LD_LIBRARY_PATH に \$AS_INSTALL/lib と /usr/lib/mps を組み込みます。</p> <p>対話型コンソールにより、SFSB、InitialContext、ホーム参照、およびリモート参照などの高可用性をテストできます。InitialContext を作成して、「Enter」キーを押します。参照は、ほかの利用可能なサーバーインスタンスにフェイルオーバーされます。ホーム参照やリモート参照についても同様に、フェイルオーバーの動作テストができます。</p>
5016656	<p>PointBase の起動スクリプトに対して、サンプルドキュメントが正しくないパスを指しています。</p> <p>startserver.sh のパスが誤って、<i>pointbase_install_dir</i>/tools/server/startserver.sh と書かれています。</p> <p>解決法</p> <p>PointBase の起動スクリプトへの正しいパスは、<i>pointbase_install_dir</i>/client_tools/server/startserver.sh です。</p>
5016647	<p>JWSDP 1.0_01 の Coffee Break アプリケーションでの Indent-amount 問題</p> <p>Coffee Break のサンプルアプリケーションを実行すると、次のエラーが表示されます。</p> <pre>ERROR: output property 'indent-amount' not recognized</pre> <p>解決法</p> <p>これは JWSDP 1.0_01 の既知の問題です。これを回避するには、JWSDP のバージョン 1.1 より新しいものを使用してください。</p>

ORB/IIOP リスナー

この節では、ORB/IIOP-Listener に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4743419	<p>IPv6 アドレスの DNS アドレス検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは RMI-IIOP クライアントが機能しません。</p> <p>IPv6 アドレスの DNS 検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) のクライアントが機能しません。</p> <p>解決法</p> <p>IPv6 アドレスを検索できるように、配備サイトに DNS (Domain Name Service) を設定します。</p>
5017470	<p>Application Server から割り当てられるデフォルトの IIOP ポート番号が、ランダムに作成されます。</p> <p>ORB のリスナーまたは IIOP のエンドポイントが作成されるとき、IIOP のポート番号は、そのどちらが作成されるかによって変わります。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 新しい ORB リスナーを作成する > 「指定する必要あり」を意味する * マークはついていませんが、IIOP ポート番号を必ず指定してください。表示されるデフォルト値は 1072 ですが、サーバーのインストール時に作成されたデフォルトのリスナーのリスナーポート番号は 3700 です。2. 新しい IIOP エンドポイントを作成する > デフォルトの IIOP ポート番号は 3600 と表示されます。ポート番号を指定せずにエンドポイントを作成すると、そのポートの値は null となります。3. 新しいサーバーインスタンスが作成されると、デフォルトの ORB リスナーポート番号は任意の大きな値、通常は 30000 以上となります。 <p>解決法</p> <p>IIOP のポート番号は 32767 を越えてはなりません。もし、設定された値がこの範囲外である場合、フェイルオーバーの際に接続障害が発生します。サーバーに対して IIOP リスナーの設定を行うときは、ポート番号が確実にこの範囲内に収まるようにしてください。</p>

マニュアル

この節では、マニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
6412668	<p>『Application Server 7 Performance Tuning Guide』の「Configuring the File Cache」の節で、次の記述が誤っています。</p> <p>デフォルトでは、「転送ファイル」は Windows NT では有効であり、UNIX では有効ではありません。UNIX では、OS で PR_TransmitFile がネイティブでサポートされるプラットフォームで「転送ファイル」を有効にします。現時点では、HP-UX や AIX などの OS がこれに該当します。その他の UNIX/Linux プラットフォームについてはお勧めしません。</p> <p>解決法</p> <p>この記述は、正しくは次のとおりです。</p> <p>デフォルトでは、「転送ファイル」は Windows NT では有効であり、UNIX では有効ではありません。UNIX では、OS で PR_TransmitFile がネイティブでサポートされるプラットフォームで「転送ファイル」が有効です。現時点では、Solaris、HP-UX、AIX などの OS がこれに該当します。その他の UNIX/Linux プラットフォームについてはお勧めしません。</p>
6067211	<p>Application Server 7 2004Q2 のメモリー持続性のための sessionFilename の動作が Application Server 7.0 シリーズから変更になっていることが記載されていません。</p> <p>『Developer's Guide to Web Applications』のマネージャープロパティテーブルの sessionFileName プロパティは次のようになっているべきです。</p> <p>状態の保持が可能な場合は、アプリケーションが再起動されるまでセッションの状態が保持されるファイルの絶対または相対パス名を指定します。相対パス名は、この Web モジュールの一時ディレクトリに対して相対的です。ファイルの実際の名前は、コンテキスト情報が先頭に付けられます。たとえば、fileName に /tmp/Session と指定し、Web アプリケーションのコンテキスト名が MemoryPersistenceApp の場合、セッションの状態は、/tmp/MemoryPersistenceAppSession に保持されます。</p> <p>これは、セッションマネージャー要素の持続型属性がメモリーである場合にのみ適用されます。</p>
5060001	<p>「Developing JAX-RPC Web Services」の章のサンプル config.xml に誤植があります。</p> <p>『Developer's Guide to Web Services』の「Developing JAX-RPC Web Services」の章にある、サンプルの config.xml で targetNamespace と typeNamespace の S が間違っていて大文字になっています。</p> <p>解決法</p> <p>targetNameSpace は targetNamespace であるべきです。</p> <p>typeNameSpace は typeNamespace であるべきです。</p>

ID	要約
5050378	<p>『Sun Java System Application Server Enterprise Edition 7 2004Q2 入門ガイド』で間違ったボタンラベルが指定されています。</p> <p>第1章にある「セッション持続性のタイプについて」で、手順を完了するために「保存」ボタンを使用すると誤って記載されています。</p> <p>「保存」ボタンはありません。「了解」ボタンを使用します。</p>
6267772	<p>Borland OptimizeIt の構成方法が間違っています。</p> <p>『Sun Java System Application Server Developer's Guide』で Borland OptimizeIt Profiler の構成方法の説明に誤植があります。</p> <p>解決法</p> <p>「プロファイラ」タブの「JVM」オプションで次のパラメータを使用します。</p> <pre>-DOPTITHOME=Optimizeit_dir -Xbootclasspath/p:/Optimizit_dir/lib/oibcp.jar -Xrunpri:startAudit=t</pre>
5039674	<p>asadmin create-jdbc-connection-pool マニュアルページにエラーがあります。</p> <p>--restype の説明が現在正しくありません。</p> <p>データソースクラスで両方のインタフェースを実装する場合は、明確にするために -restype を指定する必要があります。このオプションに正しい値が指定され、指定されたインタフェースがデータソースクラスによって実装されていない場合、エラーが生成されます。このオプションにはデフォルト値はありません。</p> <p>解決法</p> <p>データソースクラスが複数の JDBC インタフェース javax.sql.DataSource、javax.sql.ConnectionPoolDataSource、または javax.sql.XADataSource を実装する場合、明確にするために --restype を指定する必要があります。このオプションに正しい値が指定され、指定されたインタフェースがデータソースクラスによって実装されていない場合、エラーが生成されます。</p>
5010038	<p>管理コンソールのオンラインヘルプに表示されるセキュリティレルムの情報が正しくありません。</p> <p>Application Server の管理コンソールで、「Application Server インスタンス」>「Server1」>「セキュリティ」>「レルム」の順に選択すると、ヘルプファイルに file, ldap, certificate, solaris という誤ったレルムが表示されます。</p> <p>これは正しくありません。実際のレルムは file, ldap, certificate, agentRealm です。Application Server のインストーラでは、セキュリティレルムはデフォルトで agentRealm に設定されます。</p>

ID	要約
6190702	<p>hadbm help は古い情報を提供します。</p> <p>解決法</p> <p>最新の情報については、『Sun Java System Application Server Standard Edition and Enterprise Edition 7 2004Q2 Update 3 Administration Guide』(http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2783) の「Administering the High-Availability Database (Enterprise Edition)」を参照してください。</p>
4970418	<p>create-ssl のマニュアルページで、--certname と cert_name の間にスペースが入っていません。</p> <p>解決法</p> <p>--certname オプションの正しい構文は次のとおりです。</p> <pre>--certname cert_name</pre>
4993601	<p>Sun ONE Application Server 7, Enterprise Edition から、古いヘルプファイルが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>以前に Sun Java System Application Server の異なるバージョン (Sun ONE Application Server 7, Enterprise Edition など) をインストールしたことがある場合は、MANPATH 環境変数が現在のインストールディレクトリを指していることを確認してください。</p>
5008199	<p>「delete-jvm-options」のマニュアルページの例部分のエラー。</p> <p>この例は、正しくは次のとおりです。</p> <pre>asadmin delete-jvm-options --user admin --password adminadmin --host localhost --port 4848 --instance server1 -- -Djava.security.policy=/var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/serve r1/config/server.policy"</pre>
なし	<p>製品 CD の『Installation Guide』PDF ファイルが壊れています。</p> <p>解決法</p> <p>『Installation Guide』の HTML バージョンを使用します。</p>

再配布可能なファイル

Sun Java System Application Server バージョン 7 2004Q2 Update 5 には、再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告およびフィードバックの方法

Sun Java System Application Server に問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- オンラインの Sun Software Support Service
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムおよびサポートに関する問い合わせ先電話番号が記載されています。
- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

Sun Java System Application Server について討議されている、次のようなインタレストグループに登録するのも便利です。

<http://forum.java.sun.com/forum.jspa?forumID=136>

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの改善に努めており、お客様のご意見、ご提案をお待ちしております。Web 上のフォームでご意見をお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

指定の場所に、マニュアルの正式な書名と Part No. をご記入ください。Part No. は、7 桁か 9 桁の番号で、マニュアルのタイトルページまたは最初のページに記載されています。たとえば、このリリースノートの Part No. は 819-7149 です。

補足情報

Sun Java System についての有益な情報は、以下のインターネットアドレスから入手することができます。

- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/java.sys>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunjavasystem/sjsserviceessuite.html>
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System Software Support Services
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートと Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://jp.sunsolve.sun.com/>
- Sun Java System コンサルティングとプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアトレーニング
<http://wwws.sun.com/software/training/>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示されている米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

使用は、使用許諾契約の条項に従うものとします。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。

